

令和2年度
(第16回)

運営諮問会議報告書

令和3年3月

新居浜工業高等専門学校

はじめに

新居浜工業高等専門学校では、学校の管理運営に関して外部の有識者の皆様からご意見を伺う運営諮問会議を平成 16 年度から毎年度一回開催しています*。今年度は16 回目になりますが、令和 3 年 2 月 26 日に開催しました。

さて、国立高専機構は、平成 16 年の独立行政法人化以降、中期目標を立ててきましたが、今年度は第 4 期中期目標期間の二年目の年度となっています。第 4 期の重点課題として、入学者の確保、教育課程の編成等、多様かつ優れた教員の確保、教育の質の向上及び改善、学生支援・生活支援等、社会連携、国際交流の推進などが掲げられています。本校もこの方針に基づいて、その実施に取り組んでいます。

第 4 期では、より一層のグローバル化と、各高専がこれまでに培ってきた強みを活かすような特色ある学校づくりが求められています。令和 2 年度には、グローバル教育センターを設置し、タイ高専プロジェクト推進校の役割を担うようになりました。また、産業界からは、新しい価値を創造できる人材、変化に対応できる人材、実践的・探求的な人材などの育成が求められています。本校も、このような求めに応えるべく、これまでに築き上げてきた地域との連携が生み出した強みを活かして、地域に貢献できる次世代型技術者の育成、実践的 AI 活用人材の育成など、新しい人材育成にも取り組んでいます。

こうした取組には、定期的な自己点検と外部からの視点に基づく点検が重要と考えています。運営諮問会議では、外部の有識者の皆様から本校の活動について様々なご意見を伺っていますが、これらは貴重な外部の視点からの点検と位置付けています。

今年度はコロナ禍の下で、学校一体となって取り組んだオンデマンド型の遠隔教育の実施や各種行事のオンライン化などの新たな取組と実績を紹介しつつ、本校の最近の概要及び本校の目指す姿を説明しております。このような取組に対して、委員の皆様から貴重なご意見、ご要望等をいただきました。これらは今後の新居浜高専の管理運営の参考にさせていただき、改善・改革に役立てていきたいと考えています。

今後とも、本校に対してご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

令和 3 年 3 月

新居浜工業高等専門学校

校長 八木 雅夫

*平成 19 年度は不開催。

目 次

はじめに

1. 運営諮問会議次第	-----	1
2. 運営諮問会議委員名簿	-----	2
3. 学校側出席者名簿	-----	3
4. 議事録	-----	5
5. 説明資料	-----	1 3
6. 令和2年度 年度計画及び進捗状況	-----	3 4
7. 新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程	-----	4 9

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿

任期：～令和4年3月31日
(五十音順・敬称略)

氏 名	現 職
石川 勝行	新居浜市長
大場 浩正	住友金属鉱山(株) 執行役員 別子事業所長
小笠原 忠彦	愛媛県小中学校長会 理事 新居浜市立北中学校 校長
齊藤 直樹	愛媛県東予地方局長
曾我部 謙一	新居浜商工会議所 会頭
高橋 寛	国立大学法人愛媛大学 工学部長
平田 利實	元ユースエンジニアリング(株) 代表取締役社長 (本校電気工学科 昭和44年卒業)

代理出席者

(敬称略)

加藤 龍彦	新居浜副市長
-------	--------

学校側出席者名簿

職 名	氏 名
校 長	八 木 雅 夫
副校長（総務企画担当）	早 瀬 伸 樹
副校長（評価担当）	皆 本 佳 計
教 務 主 事 (兼)グローバル教育センター長	福 田 京 也
学 生 主 事 (兼)保健管理センター長	松 田 雄 二
寮 務 主 事	日 野 孝 紀
専 攻 科 長	衣 笠 巧
高度技術教育研究センター長 (兼)地域連携部門長 (兼)機械工学科 主任	吉 川 貴 士
高度技術教育研究センター 高度教育部門長	志 賀 信 哉
高度技術教育研究センター 研究推進部門長	松 友 真 哉
エンジニアリングデザイン 教育センター長 (兼)電子制御工学科 主任	出 口 幹 雄
情報教育センター長	内 藤 出
男女共同参画推進室長	橋 本 千 尋
電気情報工学科 主任	香 川 福 有
生物応用化学科 主任	中 山 享
環境材料工学科 主任	新 田 敦 己
数理科 主任	矢 野 潤
一般教養科 主任	佐 伯 徳 哉
事 務 部 長	三 戸 毅 啓
総 務 課 長	後 藤 雅 美
学 生 課 長	武 智 一 正

議 事 録

議事及び質疑応答の概要

議事

- 1 学校概要について …… 校長
- 2 前回会議における委員からの主な意見とその対応状況について
…… 副校長
(総務企画担当)
- 3 昨年度の活動状況と自己点検に基づく、令和2年度の新たな取組について

- (1) 教育に関する事項 …… 教務主事
専攻科長
情報教育センター長

【担当者から配付資料に基づき説明】

【高橋議長】

ありがとうございました。

ここまでの説明について、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。

委員の皆様いかがでしょうか。

【加藤氏（石川委員代理）】



グローバル人材の育成について、目標を何におかれているのか。例えば TOEIC や TOEFL の点数を上げることなのか。最近、企業において社内公用語を英語にする場合は TOEIC の得点が 750 点以上必要であるといったことも聞きますが、目標が見える化、数値化して明確に立てて欲しいと思います。実際の職場では数値目標が求められてくるとは思いますし、高専のような学校は数字に強いと思いますから、抽象的でなく、すべての分野において数値目標を明確に立てて定性評価ではなく定量

評価をして欲しいと思います。

それから、専攻科学生の私有 PC を学内の LAN に接続させていることと、サイバーセキュリティの人材育成は私にとって両立しません。なぜ私有 PC を学内 LAN に接続させるのかが、わかりません。企業では私有 PC を社内 LAN に接続することはできないと思います。突出した能力を持つ人材育成も大切ですが、それよりも今一番大切なリテラシー教育は、サイバーセキュリティに対するマインドの高い人材を育てることだと思いますので、そのような観点から人材育成を考えて欲しいと思います。

【高橋議長】

ありがとうございました。

どういたしましょうか、皆様からご意見をいただき、後から回答をしていただきましょうか。

【齊藤委員】



今年は、事業の実施にあたり、コロナの影響で大変だったと思いますが、リモートを活用していただきまして意見交換会、動画作成、そして出張講座と、高専には、いろいろ工夫しながら、たくさんのご協力いただいたことに感謝申し上げます。

新居浜高専の在校生の出身地については、東予地域の学生が7割を占めるのに対して、卒業後の進路では7割ぐらいの学生が県外へ出ていくということでした。

今年は、コロナの影響があり、就職先が大都市部から地方へという地方分散の動きがみられますので、地方への移住定住の促進を県政の重要課題として捉え、今年こそ、愛媛への定住を何とか促進させたいという思いがあります。令和元年度の卒業生の県内への就職率を、数字でみますと平成31年度と比較して、5ポイント上がっていますので、この機会を捉えて、ぜひ県内への学生の定着促進をお願いしたいと考えております。そのためには学生に対して地元にとどれだけ魅力的な企業があるかを知ってもらう必要があります。

そこで、愛媛県では「スゴ技」や人材確保事業の関係で「East Toyo」のパンフレットを作成しました。東予東部地域には、四国でもトップクラスの企業が集積しており、そこで働いている若手社員を紹介し、具体的にどういった働き方をしているかなどを掲載しましたので参考にしていただきたいと考えております。

特に最近、女性の職場進出が非常に重要になっておりますが、技術系の職場にはまだ女性が少ないので、ぜひ女性の職場進出を加速させたいと考えております。県庁でも技術系女性職員が少なかったのですが、ここ10年で増えてきました。土木、建築、林業、水産などにも女性職員が入庁しまして、作業服を着てどんどん現場に出ています。「East Toyo」最後のページに3社の若手女性社員の活躍を掲載させていただいております。地元への定着をぜひとも向上させていきたいので、これからもご協力をお願いいたします。

【小笠原委員】



私のほうからは中学校の教員という立場からお話をさせていただきます。

入学者の確保対策ということでいろいろ実施されていますが、今年度はコロナの影響で十分な活動はできなかったのではないかと思います。子供たちに高専の魅力聞いてみますと、「専門的な勉強が早くできる。」「高等学校の普通科や職業科に進むよりも、より専門的な勉強ができる。」という理由で、高専を志望するという意見があります。今年度推薦で合格した子供たちに聞いてみましても同じような答えが返ってきました。

した。

就職に関しても「求人倍率が高いので自分の行きたい道へ進めそうな気がする。」という答えが出ています。私どもからみると、以前より目的意識をもった子供たちの入学がどんどん進んでおり、子供たちの高専に対する考え方が変わってきたと感じております。

また、最近、中学校の現場でも、特性を持った子供たちが増えております。高専にも少なからず特性をもった子供が入学してくると思いますが、そのような子供たちへの対策、対応はどのようにされているのか、お聞きしたいと思います。よろしく願いいたします。

【平田委員】

昨年も申し上げましたが、新居浜市教育委員会主催で令和元年度から「新居浜市少年少女発明クラブ」をスタートさせました。当初から新居浜高専には応援をいただき、指導員という立場で参加していただいております。

当初、このクラブの活動は、新居浜市の施設を利用していましたが、今年度から高専の施設を利用させていただくことになりました。今年度はコロナの影響で10月からのスタートとなりましたが、機械、電気、化学、プログラミングなど様々な専門分野の先生がおられる高専の施設を利用させていただくということは、子供たちにとって素晴らしい環境であり、感謝申し上げます。

少し前は子供たちの理系離れが問題であると言われていましたが、クラブの子供たちに「今はどう、理科が好きですか。」と聞いてみますと、「高専に行きたい。」という声が多く聞かれます。クラブの子供たちは小学校5～6年生から活動を始めますので、数年後には高専を受検する年齢になります。クラブを通して理系に関心を持ってもらえるよう頑張っておりますので、引き続きよろしくお願い致します。



また、新居浜市などの小中学校ではICT教育推進のため、すべての児童・生徒にタブレットが配付されました。今後運用面での混乱が懸念されます。高専ではICT教育において「高度な技術の活用」「セキュリティの問題」など、正しい知識や技術を身につけた人材を育ててほしいと思います。

【曾我部委員】

就職についてお聞きしたいのですが、離職率はどのくらいでしょうか。たしか3年ぐらい前に、県外で就職をしていたが、辞めて帰ってきた人の情報を「新居浜ものづくり人材育成協会」の方で収集した後、我々地元企業で活用させていただきたいという話をさせていただいたと思いますが、県外に就職した学生の中で、中途退職して帰県する者がどのくらいの人数いるのかをお聞かせ願いたいと思います。



また、「えひめさんさん物語」で実施したオープンファクトリーを継続的に開催したいというのが新居浜機械産業協同組合の考えです。以前は専門の方をお願いしていましたが、これからは、地元の学生、高専の学生に参加していただき、「こんなものを展示したらどうか。」「こんなものを作ったら面白いのでは。」という提案をしていただきたいです。

【大場委員】



質問や意見は特にございませぬ。21ページにあります、3月から次年度6月末まで企業説明会特設サイトの開設をし、また愛テク企業の広報動画を学生へ配信していただけるということで大変ありがたい取組だと思っております。

【高橋議長】

例年、この場の意見や質問には次年度に回答していますが、もし、委員の方々からのご意見にこの場で回答できるものがあればいかがでしょうか。

【衣笠専攻科長】

加藤委員の意見にありました、専攻科生の私有 PC での学内 LAN の使用と、セキュリティ確保の関係ですが、まず、学内で PC を使用するための大前提として、セキュリティ教育を行っております。次に、学内 LAN については、学生がアクセスできるものと教職員が学内で使用するものは切り離しており、学生から教職員用の LAN へはアクセスできない仕組みになっております。

今回の学習環境整備を簡単に言いますと、セキュリティ対策をとったうえで、学生が学内において自身の PC を使ってインターネットに接続できるように改善したということです。セキュリティには万全を期しておりますので学内の情報がそこから漏れるということはありません。

情報教育センターの演習室の PC をいつまで維持できるかという問題もありますので、今後いかに学生が学内で PC をうまく使えるようにしていくかをトライアルしていかねばならないと考えております。そこで、まずは専攻科生の状態を検証して、いずれ本科の学生も学内で PC を使用できるようにしていきたいということで第一段階の試みを実施したところです。

【高橋議長】

他にいかがでしょうか。

【福田教務主事】

ご意見ありがとうございます。

小笠原委員からのご意見にあった、特性を持った学生への本校の対応についてです。特性を持った学生は本校でも増えております。本校では特別支援教育推進室を設置しており、教務主事が室長となっております。本校へ入学する前に、事前相談という形で、中学校でどういった配慮を受けていたのか、医師から診断書が出ているかなどの情報をいただき、新居浜市の発達支援課のサポートも受けながら、入学後の勉学のサポートをする体制になっております。

また、入学者選抜検査におきましても配慮の依頼があれば実状を確認させていただき、特別の配慮、例えば、受検時間を延長し、1.3 倍の時間で受検ということも実施しておりますのでご安心ください。

【高橋議長】

他にご意見はいかがでしょう。

それでは、一旦休憩とし、15時40分から再開ということをお願いいたします。

～ 休 憩 ～

議事

- (2) 学生支援に関する事項 …… 学生主事
- (3) 研究推進活動、地域連携活動、高度教育活動に関する事項
…… 高度技術教育研究センター
高度教育部門長
- (4) 男女共同参画に関する事項 …… 男女共同参画推進室長
- (5) 自己点検に関する事項 …… 副校長（評価担当）

【担当者から配付資料に基づき説明】

【高橋議長】



ご説明ありがとうございます。

後半のご説明で、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、時間をいただきまして議長のほうから僭越ながらの発言をさせていただきます。今回、色々な資料を見せていただきまして考えた評価でございます。

まずは、コロナ禍においても、遠隔講義の導入など

の様々な取組によって、学生の学びを止めない活動に対して敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症に関する対策本部を設置され、社会及び学内の現状確認と情報共有、学内方針の決定を行い、遠隔講義の導入などの学びを止めない活動を遅滞なく実施されたことは高く評価できます。

定員確保に関しては、志願者数が維持できていることが評価できます。コロナの影響で、対面での情宣活動は制限されましたが、オンラインでの情宣活動を実施したことで、中学生に対して貴校の魅力が十分に伝わっていることが期待できます。

卒業、修了後の進路に関しては、県内企業をはじめとした企業への就職と大学、大学院への進学など多様な進路が確保されていることがわかります。

新居浜高専の新しい人材育成の取組は、これまでの取組に加え「宇宙航空人材育成プログラム」及び「タイ高専プロジェクト推進校」は順調にスタートしていると評価します。これまでの新居浜高専の取組が評価されたことと思います。

四国唯一の工業地帯である東予地域からの要望を導入した教育の試み、および地域への人材の輩出のエコサイクルを実現し、東予地域の高等教育・研究の拠点を目指している活動を高く評価します。

教学に関しては、今年度は、コロナ対策を実施したもとの教育的な取組を評価します。

社会とのつながりを意識できるインターンシップ教育に関しては、e-learning 教材を導入した活動を評価できます。

令和2年度から国際交流推進室をセンター化され、推進体制を整備されていることを評価します。タイ高専プロジェクトによるグローバルマインドの醸成に期待します。

システマティックな FD 活動によって、遠隔講義への対応も進められていることを評価します。さらに、留年生の数を減らすためのTA補習や夏季休暇中の補習などの取組も期待できます。

次に、専攻科教育に関しては、専攻科のカリキュラム編成を刷新されたことや学生の国際的な活動を奨励されていることを評価いたします。新設されました2科目の教育効果を期待します。シニアインターンシップは学生にとって魅力的な科目になることを期待します。

情報教育センターを中心とした遠隔授業のための環境整備・支援を高く評価します。コロナの下で、緊急的に遠隔授業を始めることは容易ではなかったと考えますので、その絶え間ない努力に敬意を表します。

各種の行事が中止される中、可能な限りオンラインを併用し開催を実施されたことを評価します。

高度技術教育研究センターやエンジニアリングデザイン教育センターの取組は、涵養された力を実践するための組織的な取組として高く評価します。この取組は、愛媛大学の工学部の取組、特に、地域の高等教育機関との連携及び工学部附属センター群、エンジニアリングモールとの親和性が高いと考えます。今後、さらに、新居浜高専と愛媛大学工学部の連携を強められればと考えております。

以上まとめますと、今年度コロナ禍の中でも、遠隔講義などを積極的に取り入れ、教育・研究を止めない取組に改めて敬意を評価します。地域の要望に応えるための教育・研究の仕組みを着実に構築されており、そのことが地域からも評価され、中学校卒業時から技術者を目指すという人材の確保とその育成が十分に機能していると評価いたします。今後の発展が十分に期待できると思いますので、よろしく願いいたします。

説 明 資 料

- (独) 国立高等専門学校機構 新居浜工業高等専門学校の概要
- 第 15 回運営諮問会議における委員からの主な意見とその対応について
- 教育に関する事項
- 学生支援に関する事項
- 研究推進活動、地域連携活動、高度教育活動に関する事項
- 男女共同参画に関する事項
- 自己点検に関する事項

技術で  世界へ未来へ

(独) 国立高等専門学校機構 新居浜工業高等専門学校の概要



第16回運営諮問会議(令和3年2月26日)
校長 八木 雅夫

令和2年度(第16回)運営諮問会議 1

技術で  世界へ未来へ

新型コロナウイルス感染症対策(1)

○新型コロナウイルス感染症に関する対策本部の設置(令和2年2月25日)
2週間に1回程度対策本部会議を開催
社会及び学内の現状確認と情報共有、学内方針の決定を行う

○遠隔授業の実施
令和2年5月11日～8月30日(夏季休業含む)
・オンデマンド型を基本とする遠隔授業を実施
・1年生登校日を実施(7月6日～7月17日)
・学生の受講環境整備のため、PC・ルーターの貸出を実施
・対面授業開始後も、登校不安を抱える学生や渡日できない留学生を対象に遠隔授業配信を継続し、学修機会確保に努めた(一部継続中)
・教員向けオンライン教材作成講習会の開催
・オンラインや電話を活用した学生相談の継続

○東予地区医療機関へのサージカルマスクの提供
提供先:公立学校共済組合四国中央病院 提供枚数:2000枚

○諸会議・イベントのオンライン開催
・学校見学会(第1回:9月26日、第2回:11月7日)をオンライン開催
・第1回は再生回数900回以上、第2回は再生回数1600回以上
(詳細は「広報活動」にて報告)



令和2年度(第16回)運営諮問会議 2

技術で  世界へ未来へ

新型コロナウイルス感染症対策(2)

◆◇基本的な感染予防対策の徹底◆◇

■学生
・授業時間割の特別措置
(昼食時間を延長し、食堂等利用を分散させることによる3密回避)
・学生・学寮食堂の対策(座席数減、飛沫ガードパーテーションの設置)
・手指消毒のためのアルコール消毒液の設置
・次亜塩素酸水生成機の設置(保健室)、教室等利用後の消毒の徹底
・マスク着用指導
(夏季は熱中症予防指導含む。熱中症対策のため補給水分の提供)
・遠隔授業の提供及びサポート
・毎日の検温を基本とした体調管理の徹底

■教職員
・感染拡大期における在宅勤務の推進
交代制在宅勤務の推奨(4月27日～8月4日)
在宅勤務用貸出PC等の整備
職員向けに、在宅勤務用システム「Soliton Secure Desktop(SSD)」導入
・Microsoft Teamsを用いた会議・研修等オンライン化
・飛沫ガードパーテーション設置(技術室ほか制作)




令和2年度(第16回)運営諮問会議 3

技術で  世界へ未来へ

沿革

昭和37年 高専制度第1期校として設置(機械工学科、電気工学科、工業化学科)
昭和41年 金属工学科を増設
昭和53年 公害教育研究センターを設置
昭和62年 金属工学科を材料工学科に改組
昭和63年 電子制御工学科を増設

平成4年 全国に先駆け専攻科設置(生産工学専攻、電子工学専攻)
平成9年 工業化学科を生物応用化学科に改組
平成11年 公害教育研究センターを高度技術教育センターに改組
平成15年 電気工学科を電気情報工学科に改組、情報教育センターを設置
平成16年 独立行政法人国立高等専門学校機構新居浜工業高等専門学校へ移行
生産工学専攻を生産工学専攻及び生物応用化学専攻に改組
平成17年 ものづくり教育支援センターを設置
平成19年 材料工学科から環境材料工学科に改組
平成24年 創立50周年記念式典
平成29年 ものづくり教育支援センターをエンジニアリングデザイン教育センターに改名、
保健管理センターを設置
令和2年 グローバル教育センターを設置

12校でスタート、現在は51高専
新居浜高専と奈良高専の2校

令和2年度(第16回)運営諮問会議 4

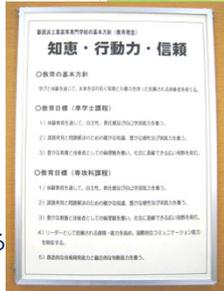
技術で  世界へ未来へ

教育理念と基本方針

教育理念
知恵・行動力・信頼

教育の基本方針

学びと体験を通じて、
未来を切り拓く知恵と
行動力を持った信頼される技術者を育てる



教室・会議室等、各所に掲示

令和2年度(第16回)運営諮問会議 5

技術で  世界へ未来へ

教育目標

本科

- 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。

さらに、専攻科の教育目標に次の事項を加える。

- 4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- 5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。



正面玄関の掲示

令和2年度(第16回)運営諮問会議 6

技術で世界へ未来へ

本科および専攻科の構成

令和2年度(第16回)運営諮問会議

**本科(準学士)：四国唯一の5学科で構成される高専
多岐にわたる製造業に対応可能な学科編成**

- 機械工学科
- 電気情報工学科 (電気工学コース・情報工学コース)
- 電子制御工学科
- 生物応用化学科 (応用化学コース・生物工学コース)
- 環境材料工学科 (材料関係の学科を持つ高専は全国で4校(仙台、鈴鹿、新居浜、久留米))

専攻科(学士)

- 生産工学専攻
- 生物応用化学専攻
- 電子工学専攻

特例適用認定専攻

技術で世界へ未来へ

規模

令和2年5月現在

学科名	学生定員	在籍学生数	専任教員数等
校長			1名
機械工学科	200名	209名	9名
電気情報工学科	200名	217名	11名
電子制御工学科	200名	207名	9名
生物応用化学科	200名	212名	12名
環境材料工学科	200名	212名	10名
数理科			12名
一般教養科			14名
小計	1,000名	1,057名 (301名)	78名 (8名)
専攻科学生 技術室職員	40名	44名(4名)	12名(1名)
事務部(総務課・学生課)			32名(15名)
合計	1,040名	1,101名 (305名)	122名 (24名)

()内は女性(内数) 令和2年度(第16回)運営諮問会議

技術で世界へ未来へ

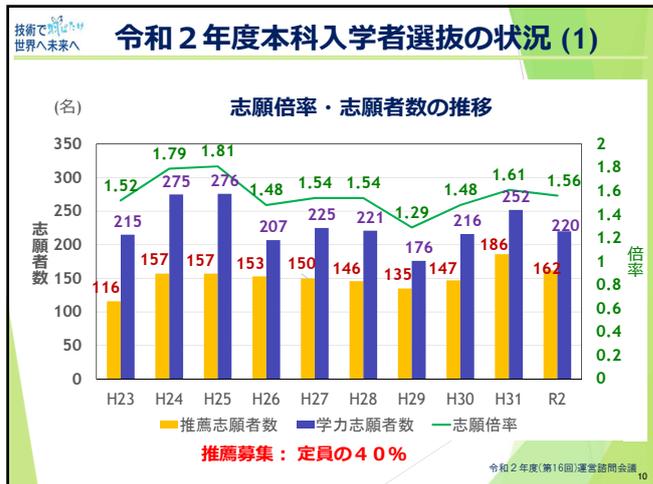
新居浜高専の教員内訳

令和3年1月現在

学科・科	機械	電気情報	電子制御	生物応用化学	環境材料	数理	一般	計
博士	7名	11名	9名	12名	10名	11名	7名	67名
技術士	1名	-	-	-	-	-	-	1名
修士	-	-	-	-	-	1名	5名	6名
他	-	-	-	-	-	-	2名	2名
計	8名	11名	9名	12名	10名	12名	14名	76名

在外研究、直近7年間で4名

令和2年度(第16回)運営諮問会議



技術で世界へ未来へ

令和2年度本科入学者選抜の状況(2)

令和2年度(第16回)運営諮問会議

学科名	令和2年度		平成31年度		平成30年度	
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
機械工学科	63名	42名 (5名)	69名	43名 (5名)	63名	42名 (1名)
電気情報工学科	62名	42名 (5名)	74名	42名 (14名)	58名	42名 (11名)
電子制御工学科	63名	40名 (4名)	68名	41名 (5名)	60名	42名 (4名)
生物応用化学科	61名	42名 (24名)	59名	42名 (30名)	55名	42名 (21名)
環境材料工学科	62名	42名 (16名)	68名	42名 (18名)	59名	42名 (24名)
計	311名	208名 (54名)	338名	210名 (72名)	295名	209名 (61名)

注：()は女子で内数。第2・3志望の学科に合格した者の数は合格した学科の志願者として計上

令和2年度(第16回)運営諮問会議

技術で世界へ未来へ

在校生の出身地域別状況

令和2年5月1日現在

地域	学生数	割合(%)
新居浜市	431名	39.2
西条市	193名	17.5
四国中央市	129名	11.7
今治市	97名	8.8
松山市	61名	5.6
その他愛媛県内	96名	8.7
愛媛県外	87名	7.9
外国人留学生	7名	0.6
合計	1101名	100.0

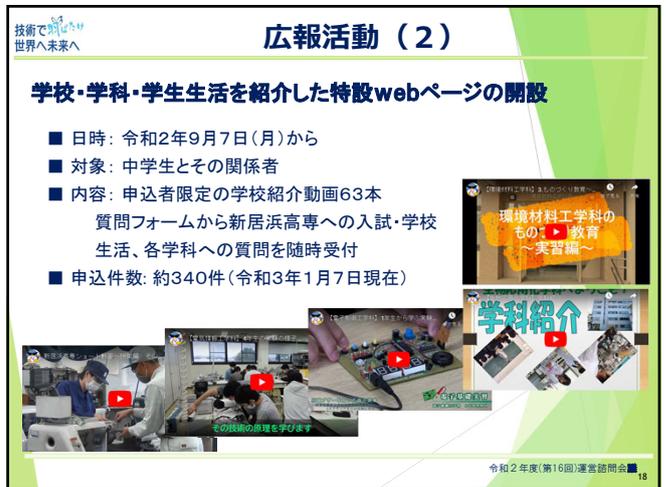
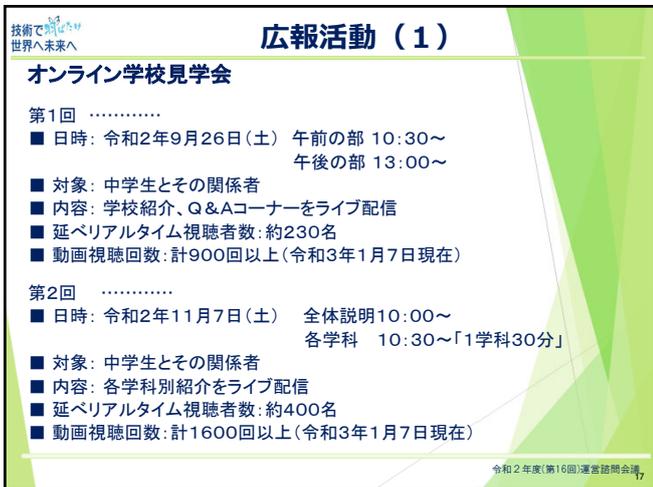
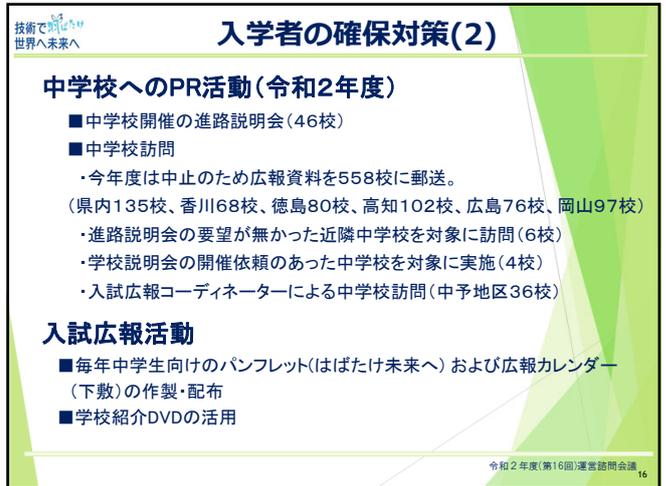
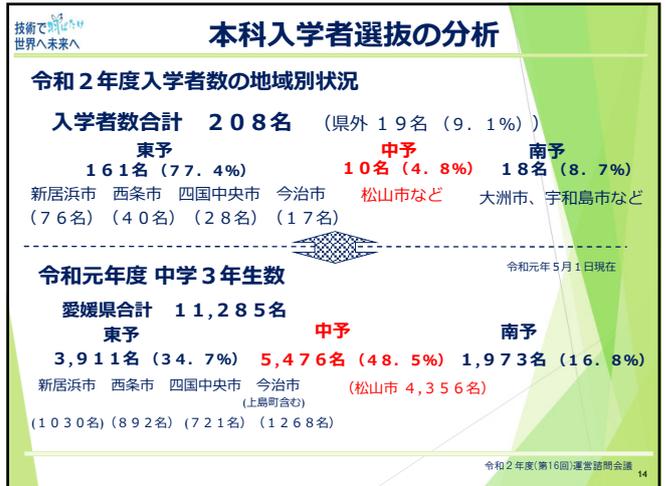
東予地域 77.2%

留學生

マレーシア	モンゴル	ラオス	計
2名 (1名)	4名 (1名)	1名	7名 (2名)

()内は女子学生(内数) 令和2年12月1日現在

令和2年度(第16回)運営諮問会議



高専卒業・修了後の進路 (1)

令和元年度本科卒業生の就職・進学状況

学科名	卒業者数	就職者数	進学者数	その他	求人倍率
機械工学科	40名	34名	6名	0名	22.1
電気情報工学科	42名	24名	17名	1名	31.2
電子制御工学科	32名	22名	10名	0名	34.8
生物応用化学科	42名	30名	12名	0名	15.6
環境材料工学科	30名	24名	6名	0名	30.5
計	186名	134名	51名	1名	25.9

就職先
(株)アイワ技研、旭化成㈱、出光興産㈱、ANAグループ整備部門、愛媛小林製薬㈱、大阪ガス㈱、花王グループ、株式会社、関西電力㈱、㈱カンセツ、キヤノン㈱、㈱クワレ 西条事業所、㈱コベルコ科研、サントリグループ、㈱シークス、JFEスチール㈱ 西日本製鉄所、四国電力㈱、SUBARUテクノ㈱、㈱住友分析センター 愛媛ラボラトリー、住友共同電力㈱、住友金属鉱山㈱ 別子事業所、住友ケミカルエンジニアリング㈱、タイキン工業㈱、大日精化工業㈱、太陽石油㈱、㈱タマディック、中国電力㈱、㈱デザインネットワーク、東レ㈱、新居浜市役所、日東電工㈱、日本エイアンドエル㈱、日本精工㈱、日本ゼオン㈱ 水島工場、パナソニックグループ、BEMAC㈱、㈱日立ビルシステム、補助工場、不二精機㈱、富士通㈱、フジボウ愛媛㈱、三浦工業㈱、三菱電機ビルテクノサービス㈱、メタウォーター㈱、ユニチカ㈱、ユニ・チャームプロダクツ㈱、他

進学先
新居浜高専専攻科
編入先 (大学)
豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、東北大学、宇都宮大学、東京大学、東京海洋大学、岐阜大学、京都工芸繊維大学、香川大学、徳島大学、愛媛大学、高知大学、九州大学、九州工業大学

令和2年度(第16回)運営諮問会議

高専卒業・修了後の進路 (2)

令和元年度専攻科修了生の就職・進学状況

専攻名	修了者数	就職者数	進学者数	その他	求人倍率
生産工学専攻	6名	4名	2名	0名	149.0
生物応用化学専攻	8名	4名	4名	0名	95.6
電子工学専攻	15名	10名	5名	0名	62.7
計	29名	18名	11名	0名	89.2

就職先
アイム㈱、旭化成㈱、川崎重工㈱、京セラコミュニケーションシステム㈱、シブヤ精機㈱、(株)新来島どつく、住友テクノリサーチ㈱、住友化学㈱、第一稀元素化学工業㈱、チームラボ㈱、日亜化学工業㈱、(株)三好鉄工所、ユースエンジニアリング㈱、(株)レクザム 他

進学先
奈良先端科学技術大学院大学、筑波大学大学院、東京工業大学大学院、電気通信大学大学院、大阪大学大学院、広島大学大学院、愛媛大学大学院、九州工業大学大学院

令和2年度(第16回)運営諮問会議

高専卒業・修了後の進路 (3)

令和元年度卒業生及び修了生の地域別就職状況

	(新居浜市内)	(愛媛県内)	四国	関西	関東	その他	計
本科	(33名)	(44名)	53名	27名	45名	9名	134名
割合 (%)	(24.6)	(32.8)	39.6	20.1	33.6	6.7	100.0
専攻科	(5名)	(7名)	7名	3名	8名	0名	18名

平成30年度卒業生及び修了生の地域別就職状況

	(新居浜市内)	(愛媛県内)	四国	関西	関東	その他	計
本科	(25名)	(39名)	47名	33名	45名	19名	144名
割合 (%)	(17.4)	(27.1)	32.6	22.9	31.3	13.2	100.0
専攻科	(4名)	(8名)	8名	2名	5名	2名	17名

令和2年度(第16回)運営諮問会議

新居浜高専の新しい人材育成

新居浜高専の新しい人材育成プログラム

既存プログラムの継承
 新規プログラムの推進

KOSEN (高専) 4.0イニシアティブ 詳細は後述
 平成29年度採択事業
「社会実装教育を基盤とする地域の次世代型技術者(人財)の育成」
 平成30年度採択事業
「ロボットと共に育つ実践的AI活用人材育成」
女子中高生の理系進路選択支援プログラム(科学技術振興機構: JST)
 平成30年度採択事業
「女子中高生のための工業都市 東予 夏の学校 他」

宇宙航空人材育成プログラム
 本校が研究代表機関として6高専で共同提案した「継続的な超小型衛星開発・運用を通じた次世代の高専型宇宙人材育成」

グローバル教育センター・タイ高専プロジェクト推進校
 既協定大学等との交流プログラムに加え、全国の10高専で現在2校が開校しているタイ高専を対象としたタイ高専プロジェクト推進体制を構築

令和2年度(第16回)運営諮問会議

新居浜高専の強み

地理的要因

四国最大の工業地帯にあり、**地域連携が容易**
(地元企業からの人材供給、技術支援の期待が大きい)
 ⇨ 新居浜高専の目指す姿「東予地域の高等教育・研究拠点」

高度技術教育研究センター (地域連携の拠点)

工業技術懇談会：産学官の情報交流、63回開催
 マシンラーニング応用ラボ ⇨ 平成30年度イニシアティブ(採択)
(地域のAI活用人材育成の拠点)

介護工学研究会 (福祉・病院・産業界との連携)

毎日介護賞 ⇨ NPO法人「新居浜いきいき工房」
 ⇨ 平成29年度イニシアティブ(AT人材育成:採択)

学生の主体性を重んじた教育活動

学生主体による小中学校への**新居浜高専版出前授業**(約20件/年)
 ⇨ 平成29年度イニシアティブ事業の柱の一つ

令和2年度(第16回)運営諮問会議

新居浜高専の目指す姿

愛媛県東予地域の特色

- 四国随一の工業地帯(多岐にわたる製造業)
 - ・新居浜市(東予地域の中心)：非鉄金属、機械、化学および関連企業
 - ・今治市：造船業、食品および関連企業
 - ・西条市：半導体、化学、飲料および関連企業
 - ・四国中央市：パルプ・紙・紙加工品製造業および関連企業

東予地域 事業所数 1,086事業所 (愛媛県の52%、四国の18%)
2019工業統計 従業員数 42.9千人 (愛媛県の56%、四国の20%)
製造品出荷額 3.4兆円 (愛媛県の79%、四国の36%)

工学系高等教育機関：新居浜高専のみ

新居浜高専の目指す姿

東予地域の高等教育・研究の拠点

KOSEN (高専) 4.0イニシアティブ事業の推進
 産学官の連携および地域貢献の推進
(共同研究、地域の若手技術者育成、地域への人材供給)
学生の主体的な学びの支援
(新居浜高専版出前授業、エンジニアリングデザイン教育、グローバル教育)

令和2年度(第16回)運営諮問会議

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

令和2年度(第16回)運営説明会議 25

第15回運営諮問会議における委員からの主な意見とその対応状況について

	委員からの意見	対応状況
1	キャリア教育について	
	愛媛県内の企業へのインターンシップを増やすことが、県内への就職率増加にも繋がると思うので、県内企業のインターンシップ件数を増やし、地元就職の更なる促進をお願いしたい。	今年度は新型コロナウイルス感染症対策のためインターンシップ研修を e-learning 講座として開講し、インターンシップ研修受入れ可能と連絡のあった企業のみ限定して希望学生を派遣した。今年度はインターンシップ件数を増やす状況下ではなかったため、次年度以降、感染状況を見ながら件数増加の働きかけをしていきたい。
	インターンシップのみならず、懇談会や社員とのディスカッションなど様々な角度で情報交換ができる機会を設け、就職後のミスマッチを防ぐための手立てを講じる必要があると思うので、協力いただきたい。	今年度は感染対策を徹底して卒業生講話を対面形式で実施した。OB や OG との懇談については、企業から希望があれば学級担任の裁量により課外特別活動の時間を利用して適宜実施しているため、今後も可能な限り継続していきたい。 3月から次年度6月末まで企業説明会特設サイト（オンライン）の開設を予定している。また、愛テク会員企業の広報動画も学生へ配信を予定している。
2	小・中学校との連携について	
	高専入学後のミスマッチを防ぐため、中学校と高専との間で、情報共有を活発に行う必要がある。特に、メンタル面での悩みや特性を持った学生については、情報共有及び情報交換することで、退学等を未然に防ぐ手立てを講じることができると思うので、より一層の連携が望まれる。	今年度は感染拡大防止のため、中学校訪問や地区別学校説明会を実施できなかった。夏季体験学習も集合形式で実施できなかったが、学校見学会はオンラインで開催し、コンテンツを何度も視聴できるようにすることでミスマッチ防止に努めた。また、前期に遠隔授業を実施したが、講義スタイルになじめずにメンタル面で不調になった学生も散見され、オンラインによるカウンセリング等も活用し対応した。今後、中学校側とも相談しながら、連携を強化していきたい。
	新居浜市の小・中学校は、ESD や SDGs の取組を進めているが、中学生にとって参考となるようなモデルがないのが現状であるため、小・中学校と連携し、高専には先導的なモデルを提示していただきたい。	元新居浜市校長の森本先生をコーディネーターとしてお迎えし、本校の40近い出前講座のテーマを小中学校の学習指導要領の分野との対応付けを行った。また、SDGs とプログラミングについて新たに8テーマの講座を作成し、充実させた。

3	研究，地域連携及び社会貢献活動について	
	<p>愛テクフォーラムの共同研究等推進事業において，共同研究の実施件数が0件なので，シーズ発表の方法や内容について工夫するとともに，新居浜市の共同研究に関する支援事業等も活用し，共同研究の推進に尽力いただきたい。</p>	<p>愛テクフォーラムの共同研究等推進事業における共同研究については，今年度は実施中であり，新居浜市の企業への助成金事業等も活用させていただいている。シーズの発表方法については，シーズ発表会，シーズ集の発刊，HPでの研究者一覧・シーズ集の公開など充実させた。</p>
	<p>今年度は東予東部ものづくり若年人材確保事業にご協力いただいたが，次年度は，えひめさんさん物語で実施したオープンファクトリーと若年人材確保事業をリンクさせて事業を実施する計画なので，協力いただきたい。</p>	<p>東予東部ものづくり若年人材確保事業の15社の企業説明動画の制作を支援し，学生への視聴システムを構築した。4年次の学生は一斉視聴し，その後全学生が各自でいつでも閲覧できるシステムとなっている。</p> <p>企業との意見交換会では，本校からのLIVE配信による企業説明・質疑応答を8企業と実施するとともに，web面接のスキルアップを支援した。</p>
4	その他	
	<p>新居浜市へのUターン就職促進事業について，高専のホームページに掲載しているが，認知度が低いので，PRの工夫をしてほしい。</p>	<p>本校ホームページの「卒業生の方へ」というバナーへの掲載に加えて，本校同窓会の事務局に対し，各種会合等において本事業のことを紹介してもらえよう依頼を行った。また，5年生と専攻科2年生にも卒業・修了直前に周知を行ったほか，教職員には年2回の周知を行った。その結果，令和2年度は，本事業への問合せが6件あり，うち1件は，(一社)新居浜ものづくり人材育成協会のコーディネーター等との面談も行い，現在，情報交換を行いながら再就職に向けて話を進めている状況である。</p>

教育に関する事項

本科教育に関する取組

第16回運営諮問会議(令和3年2月26日)

教務主事 福田 京也

令和2年度(第16回)運営諮問会議

本科教育に関する報告内容

今年度のトピックス

1. 新型コロナウイルス感染症対策
 - ・遠隔授業対応
2. 学生に対する教育について
 - ・インターンシップ
 - ・海外語学研修の単位化
 - ・タイ高専プロジェクトの推進
3. FD・授業改善について
 - ・教育の質保証勉強会
 - ・CBT、K-SEC、遠隔授業振り返り
 - ・留年原因分析、TA補習による支援

令和2年度(第16回)運営諮問会議

1. コロナ対応(遠隔授業関係)

2020年

- 4/10 遠隔授業教材作成講習会(1回目)開催
- 4/14 運営会議にて、5/11より**遠隔授業決定(8/4まで)**
- 4/16 遠隔授業推進WG立ち上げ、情報共有と集約開始
- 4/17 教員へ遠隔授業方法について周知
- 4/20 学生の通信環境調査実施
- 4/22 遠隔授業推進ロードマップ作成
- 4/23 遠隔授業の具体的な方針を決定
遠隔授業の流れについての学生向けアナウンス
- 4/27 遠隔授業試行開始、学年ごとにシステム負荷テスト
- 5/1 校長メッセージ動画配信と簡単な小テスト実施
全学生によるLMS*システム負荷テスト
遠隔授業教材作成講習会(2回目)開催*LMS: Learning Management System
WebClassにて出席管理・資料、MS365に動画教材
- 5/11 **遠隔授業スタート**

令和2年度(第16回)運営諮問会議

1. コロナ対応(遠隔授業関係)

2020年

- ・5/18以降、**学生の通信環境と受講環境再調査**
6月からモバイルルーター貸与開始
- ・遠隔授業推進予算申請(補正予算)、**予算措置決定**
7月ノートPCレンタル19台、ルーター25台を貸与開始
- ・1年生登校日設定(7/6~10)
- ・6/19県をまたぐ移動制限解除後に対応
- ・遠隔授業困難学生の対応
登校指導
PC演習室利用許可
- ・遠隔授業8/4終了、8/5以降の登校指導
- ・8/25~30補習期間設定
- ・**8/31(月)対面授業開始**
- ・罹患回避学生、渡日できていない留学生対応
(遠隔授業教材の提供開始)

令和2年度(第16回)運営諮問会議

2. 学生に対する教育(キャリア教育)

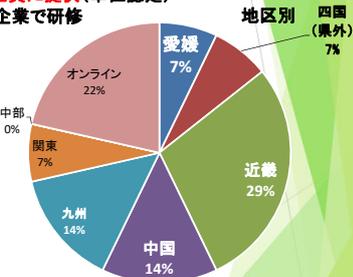
◆コロナ禍の本科インターンシップ

- ・学習内容と実社会の関係、仕事の適正・興味関心、自覚のきっかけ
- ・今年度はコロナ対応のため企業へ受入依頼せず(学生へ斡旋せず)
- ・**e-learning教材を本科4年生全員に提供(単位認定)**
- ・希望者23名が夏季休業中に企業で研修

令和2年度	受入企業数	昨年度比
愛媛	1	▲41
四国(県外)	1	▲8
近畿	4	▲46
中国	2	▲15
九州	2	▲1
関東	1	▲49
中部	0	▲8
オンライン	3	3
合計	14	▲165

新居浜 1社(▲17)

愛媛県(新居浜以外) 0社(▲24)



令和2年度(第16回)運営諮問会議

2. 学生に対する教育(グローバルマインド育成)

◆グローバル教育センター設置

- ・令和2年度より国際交流推進室をセンター化、推進体制整備

学生を海外へ

◆海外語学研修の単位化

- ・令和2年度より海外語学研修に参加した学生に単位認定
- ・昨年3月の海外語学研修旅行(オーストラリア)中止
- ・今後、オンライン語学研修による単位認定を検討

◆海外留学生安全対策協議会(JCSOS)入会

海外の学生を

- ◆短期交流学生(台湾)受け入れ中止
- ◆留学生(マレーシア・モンゴルから3年次編入)渡日遅延対応
- ◆新居浜市国際交流員による講演会

令和2年度(第16回)運営諮問会議



新居浜市国際交流員(ファラさん)による講演会10/22

技術で開き世界へ未来へ 2. 学生に対する教育(グローバルマインド育成)

◆ **タイ高専プロジェクト推進校に採択(11月)**

- ・タイランドイニシアティブ4.0実現のため技術者早期育成
- ・日本とタイ政府間の円借款JICAプロジェクトを高専機構受注
- ・KOSEN-KMITL(2019/5)とKOSEN-KMUTT(2020/5)設立支援
 - KMITL:キングモンクット工科大学ラカバン校
 - KMUTT:キングモンクット工科大学トンブリ校
- ・日本の高専教育を10年間で移植(プロジェクト期間2020~29年度)

Project components and project sites
KOSEN-KMITL and KOSEN KMUTT

12/17タイ高専プロジェクト説明会資料より 令和2年度(第16回)運営諮問会議

Welcome Executives and Delegates to KOSEN-KMITL Ceremony
May 12, 2019
King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang

タイ高専(KOSEN-KMITL開校式)

2019/5/12のタイ高専開校式に校長・教務主事参加

技術で開き世界へ未来へ 2. 学生に対する教育(グローバルマインド育成)

◆ **タイ高専プロジェクト推進校に採択(11月)**
タイ高専プロジェクト推進体制(機構本部案)

本校の寄与
 ・タイ高専へ教員派遣(機械工学科教員派遣中)
 ・交流協定締結・交流活動推進
 ・教材開発支援
 ・タイ高専4年生の短期受入プログラム立案

12/17タイ高専プロジェクト説明会資料より 令和2年度(第16回)運営諮問会議

技術で開き世界へ未来へ 3. FD・授業改善の取組

◆ **教育の質保証勉強会(機構本部主催・月1回オンライン会議)**
・プロジェクト成果共有、高専共通DP検討

PDCAの中での質保証

学内の全情報・学外の関連情報

令和2年度(第16回)運営諮問会議

技術で開き世界へ未来へ 3. FD・授業改善の取組

◆ **CBT*による到達度評価 学修成果の可視化**

- ・学生自らが学習効果を検証するため
- ・授業やカリキュラム改善の指針に
- ・令和2年度後期 1年~3年生(数学、物理、化学)を実施

*CBT: Computer Based Testing

◆ **K-SEC* サイバーセキュリティ人材育成**

- ・実践校として参画
- ・カリキュラム作成
- ・セキュリティ教材作成
- ・全国高専へ展開支援
- ・講習会、ワークショップの開催

*K-SEC: KOSEN Security Educational Community

令和2年度(第16回)運営諮問会議

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ 3. FD・授業改善の取組

◆ 遠隔授業(5/11~8/4)で良かった点・悪かった点を振り返り

11月~12月教員会にて情報共有

(1) 遠隔授業で良かったこと
 新編法高専遠隔授業の振り返り
 教員が良かったこと: 授業改善・スキル向上
 学生にとって良かったこと: 授業準備
 教員にとって良かったこと: 授業準備

(2) 遠隔授業で良くなかったこと、悪かったこと・大変だったこと
 学生にとって悪かったこと: 授業準備
 教員にとって悪かったこと: 授業準備

従来の対応: 授業準備

授業準備

主な意見
 ・オンデマンド教材で何でも振り返り可能
 ・ITスキル向上
 ・授業準備が大変だった
 ・コミュニケーション不足でトラブル多発
 ・学生対応が後手後手に

令和2年度(第16回)運営諮問会議 13

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ 3. FD・授業改善の取組

◆ 留年原因分析、TA補習による支援

・留年(休学・退学含む)の原因を担当から聞き取り
 ・10の原因要素に分解

留年の原因

- 心身の不調
 - 病気・ケガ ①
 - メンタルの不調
 - 学校生活が原因(成績不振以外) ②
 - 成績不振が原因 ③
 - その他 ④
- 成績不振
 - 他学意欲減退 ⑦
 - 出席不良 ⑧
 - 専門基礎科目の学力不足 ⑧
 - 専門科目への適性が低い ⑨
 - その他 ⑩
- その他(留学・大学進学他) ⑪
- 専門学科とのミスマッチ ⑤
- その他 ⑥

令和2年度(第16回)運営諮問会議 14

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ 留年率と留年の原因分析

留年率の年度推移

減少傾向

令和元年度 主な原因を回答

令和元年度 留年率: 13名 (1.2%)

令和2年度 留年率: 11名 (3.0%)

令和3年度 留年率: 24名 (4.5%)

主な原因を回答

- 成績不振: 25 (1.2%), 28 (3.0%), 22 (4.5%)
- 専門基礎能力: 11 (1.2%), 11 (3.0%), 19 (4.5%)
- 専門ミスマッチ: 15 (1.2%), 8 (3.0%), 14 (4.5%)
- メンタル: 15 (1.2%), 17 (3.0%), 14 (4.5%)
- 病気・ケガ: 6 (1.2%), 3 (3.0%), 3 (4.5%)
- 他学意欲: 2 (1.2%), 11 (3.0%), 14 (4.5%)
- その他: 2 (1.2%), 3 (3.0%), 3 (4.5%)

分析
 ・成績不振が多い
 ・専門能力不足は3年以上に多い
 ・メンタル不調は一定数いる

対策
 ・気軽に学生相談利用へ
 ・学生ピアサポーター導入へ
 ・TA補習による学力補充

令和2年度(第16回)運営諮問会議 15

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ TA補習・学習支援 感染拡大予防を徹底して実施

2020年度 TA補習(数学・物理)

日程: 10/27、30、11/13、17 (後期中間試験前の放課後)
 1/14、21、26、2/2 (学年末試験前の放課後)

受講生: 1年・2年生各25~35名
 講師: 本科4~5年生、専攻科生25~30名

夏季休業中の学習支援(遠隔授業内容の補習)

期間: 8/25(火)~30(金)
 内容: 遠隔授業内容の補習
 講師: 本校教員

オフィスアワー設定

週に1日入室日設定
 質問対応(設定時間に関わらず対応)

令和2年度(第16回)運営諮問会議 16

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ 本科教育に関するこれからの取組

- ▶ 高専教育の質保証に関する取組
 (全高専DP共通化、本校DP,CP見直し、MCCIに基づくCBT作問・レビュー、分野横断的能力のアセスメント)
- ▶ WebシラバスやCBTの活用
 (到達度結果を学生へフィードバック・自学自習の促進、教員の授業改善)
- ▶ グローバル教育の推進
 (低学年で英語を使ったものづくり教育科目設定)
- ▶ タイ高専プロジェクト(教材開発支援、交流事業の活性化)
- ▶ 学生・教職員に対するサイバーセキュリティ教育の強化

令和2年度(第16回)運営諮問会議 17

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

~新居浜高専~

令和2年度(第16回)運営諮問会議 18

教育に関する事項 専攻科教育に関する取組

第16回運営諮問会議(令和3年2月26日)

専攻科長 衣笠 巧

専攻科に関する今年1年の取り組み

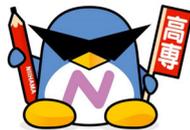
- 専攻科カリキュラムの改正(令和3年度～)
 - ◆ 「海外語学実習(2単位)」新設
海外語学研修の推進
 - ◆ 「シニア・インターンシップB(3単位), C(4単位)」新設
長期インターンシップへの対応
- 専攻科と愛媛大学工学部との教育連携
 - ◆ 令和2年6月26日(火)
教育・研究の連携に関する打合せ
 - ◆ 大学院進学を強化するにあたって、進学に関するアンケート調査から開始することとした。
現在、アンケート内容を検討中。

専攻科に関する今年1年の取り組み

- 専攻科シニア・インターンシップ
 - ◆ 希望者5名(専攻科1年生24名中)が夏季休業中に参加
住友金属鉱山(3名),日東電工,広島大学大学院
 - ◆ 10月2日(金)報告会実施
- 学習環境の整備
 - ◆ 専攻科学生の私有PCを学内LAN接続許可
 - ◆ 専攻科学生の私有PCから専攻科学生室のプロジェクタに投影可能
- 専攻科入学生の定員確保
 - ◆ 専攻科学生による本科1,2年生へのPR

専攻科に関するこれからの取り組み

- 専攻科教育の質の向上
 - ◆ グローバル教育センターとの連携
国際交流イベント・海外インターンシップへの参加推進など



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高专～

情報教育センター

令和2年度運営諮問会議(令和3年2月26日)

情報教育センター長 内藤 出

技術でつなぐ世界へ未来へ **遠隔授業(前期)のための環境整備・支援(1)**

■方針(教務委員会)
オンデマンド教材を利用した双方向型

■学生に対する対応

- ・遠隔授業の実施手順の周知と支援
 - 学生向け資料の作成と提示(4/27)
 - 遠隔授業のための準備と接続試験(4/27-5/8)
- ・遠隔授業の受講が困難な学生の支援
 - 登校して演習室にて遠隔授業を受講できる環境の整備
 - ←感染防止の観点から、状況確認の上で許可した学生のみ利用
 - 希望者への機器貸与(Wi-Fiルータ、PC)
 - ←台数に制限あり

令和2年度(第16回)運営諮問会議 25

技術でつなぐ世界へ未来へ **遠隔授業(前期)のための環境整備・支援(2)**

■教員向けの遠隔授業実施モデル・手順(雛形)の作成、および実施環境の整備

- ・「WebClass」と「マイクロソフトTeams(MS Teams)」を併用
 - WebClass: 本校で従来から使用している学習管理システム(LMS)
 - 学生・教員とも利用に慣れている
 - ？双方向の授業には課題あり
 - MS Teams: 高専機構全体として一括契約も、本校でほとんど利用なし
 - ×学生・教員の多くが利用に慣れていない
 - 双方向性の実現に有効
- ・音声付き教材の作成方法の例を紹介(マイクロソフトPowerPoint)

教員向けに、教材作成講習会(4/10)、遠隔授業講習会(5/1)を実施

令和2年度(第16回)運営諮問会議 26

技術でつなぐ世界へ未来へ **遠隔授業(前期)のための環境整備・支援(3)**



新型コロナウイルス
遠隔授業高度化も
11日から新居浜高専

ネット上に教材 毎回課題 メールで質問
終息後も活用 双方向型の導入目指す

本校の遠隔授業に関する新聞記事
(愛媛新聞2020年5月4日付、愛媛新聞提供)

令和2年度(第16回)運営諮問会議 27

技術でつなぐ世界へ未来へ **その他のコロナ禍対応に関する支援**

- ・オンライン学校説明会(9/26、11/7)の実施に関する支援
- ・保護者懇談会(1/16)のオンライン実施(希望者のみ)
 - 教員、保護者向けマニュアルの作成
- ・オンライン企業説明会(3/1予定)の実施に関する支援

・・・等

令和2年度(第16回)運営諮問会議 28

技術でつなぐ世界へ未来へ **サイバーセキュリティ人材育成事業(1)**

■背景

- ・ICTの発展・普及による利便性向上と引き換えに、日常生活でもサイバーセキュリティ・リスクが深刻化
 - マルウェア「Emotet」への感染を狙う攻撃メールの増加(令和元年～)
- ・深刻なサイバーセキュリティ人材不足
 - 19.3万人不足(2020年時点での推計)
(経産省「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」平成28年6月10日)
- ・学生が被害者になる危険、および加害者となりうるおそれの増大
 - 知識とモラル意識の不足

■目的

15歳からの早期情報セキュリティ教育による

1. 突出した能力を持つサイバーセキュリティ人材の輩出(質的向上)
2. 体系的にセキュリティ知識を身につけた人材の育成(量的拡大)

令和2年度(第16回)運営諮問会議 29

技術でつなぐ世界へ未来へ **サイバーセキュリティ人材育成事業(2)**

■活動期間
平成27年度～

■主な活動内容

- (1) 人材イメージとカリキュラムの作成
- (2) 教材の作成と全国高専への展開
- (3) セキュリティ演習教材の導入
- (4) 教員養成
(講習会、ワークショップの開催)
- (5) イベント・他機関連携

■体制
・拠点校5校、実践校15校

新居浜・・・実践校(平成29年度～)



令和2年度(第16回)運営諮問会議 30

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

サイバーセキュリティ人材育成事業(3)

- 授業等における取り組み
 - ・低学年向けセキュリティ実習
 - 10/29、電気情報工学科1年生対象に実施
- 授業以外の取り組み
 - ・「サイバーセキュリティシンポジウム道後(SEC道後)2020」
 - 9/17、18(開催延期・オンライン開催)、試験期間中のため教職員のみ参加
- 教職員に対する講習
 - ・「次期MCC素案に基づいたカリキュラムモデル作成ワークショップ」
 - 8/25の半日コースに参加、情報系以外の学科への情報セキュリティ教育の展開を目指す
 - ・四国警察支局による教職員向け講演会
 - 2/12、「情報セキュリティ対策について」

※コロナ禍の影響により、可能な範囲の活動を実施

令和2年度(第16回)運営諮問会議 31

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ



技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

～新居浜高専～

令和2年度(第16回)運営諮問会議 32

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

学生支援に関する事項

学生支援委員会・保健管理センター

第16回運営諮問会議(令和3年2月26日)
学生主事(保健管理センター長) 松田雄二

令和2年度(第16回)運営諮問会議 33

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

学生支援に関する報告内容

今年度のトピックス(キャンパスライフ with コロナ)

1. 各種行事の開催状況
 - ・学校行事、**中止**、対策を講じての実施した行事
2. 感染予防対策
 - ・健康管理、環境対策、消毒等
3. 新しい取り組み(ONLINE活用等)
 - ・キャンパスライフ
 - ・学生会活動
 - ・キャリア支援
4. 学生支援状況
 - ・学生支援体制整備
 - ・ピアサポート

令和2年度(第16回)運営諮問会議 34

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

1. 各種行事の中止状況

2020年

- 4月: 高校総体予選
- 5月: 1年生@大洲合宿研修、他学年@工場見学等
- 6月: 高等学校総合体育大会
- 7月: 高専ソコチカラ
 - 四国地区高専体育大
 - 中四国高専弓道大会
 - 高校野球愛媛県大会
- 8月: 全国高専体育大会
- 11月: 国領祭
- 12月: 四国地区総合文化祭(阿南)

インターハイ、国体、鳥人間コンテスト、Hondaエコマイレージチャレンジ、等

令和2年度(第16回)運営諮問会議 35

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

1. 各種大会への本校の対応

- ・9月20日(日)から課外活動開始
- ・11月1日(日)から、下記のコロナウイルス感染予防対策を講じ、徹底した上で、構内での公式戦・準公式戦・代替試合の開催を認める。
- ・11月下旬、愛媛県教育委員会方針に準ずる対応。
 - ・・・現在も継続中

- ・大会要項、感染予防対策ガイドラインの策定・提出
- ・感染予防対策責任者(本校、参加校)
- ・大会参加者(保護者等の観戦者を含む)の健康チェックシートの提出

令和2年度(第16回)運営諮問会議 36

技術で輝け！
世界へ未来へ

1. 各種行事の開催状況

全国高専サッカー選手権大会(四国ブロック代表)

- ・12/17-21@静岡県裾野市時之栖スポーツセンター
- ・16チーム参加(試合結果:ベスト8)
- ・大会ガイドラインに基づき、大会前後2週間の健康観察




令和2年度(第16回)運営諮問会議 37

技術で輝け！
世界へ未来へ

1. 各種行事の開催状況

◆ 高専連合会主催行事

ロボコン、プロコン、デザコン(すべてONLINE開催)

ロボコン: 10/25 四国大会@弓削、11/29 全国大会@東京

- 新居浜高専Aチーム
ロボット名: Juraise
【四国地区大会】奨励賞、東京エレクトロン株式会社 特別賞
- 新居浜高専Bチーム
ロボット名: 十台十色
【四国地区大会】奨励賞、セメダイン株式会社 特別賞
- 新居浜高専Cチーム
ロボット名: テーブルパフォーマンス
【四国地区大会】奨励賞
- 新居浜高専Dチーム
ロボット名: 別子プラザーズ
【四国地区大会】奨励賞
【全国大会】奨励賞、田中貴金属グループ 特別賞

令和2年度(第16回)運営諮問会議 38

技術で輝け！
世界へ未来へ

1. 各種行事の開催状況

四国地区大会 / 全国大会(新居浜高専Dチーム)@バーチャル国技館




令和2年度(第16回)運営諮問会議 39

技術で輝け！
世界へ未来へ

1. 各種行事の開催状況

令和2年度チャレンジプロジェクト(6件採択)

- ・英語アクティビティによる英語能力向上プロジェクト
- ・AMRチップを用いた電光掲示板製作水辺の憩いの場の創造
- ・VRシミュレータ用インターフェイスの作成
- ・Raiserプロジェクト
- ・水辺の憩いの場の創造
- ・CanSat competition in Oita への参加(コロナのため自粛)

令和2年度(第16回)運営諮問会議 40

技術で輝け！
世界へ未来へ

1. 各種行事の開催状況(クラスマッチ 1/19)

今年度の思い出づくりの工夫: 同学年同士の組合せ、男女混合チーム



バレーボール



ドッジボール



Eスポーツ



感染予防対策

41

技術で輝け！
世界へ未来へ

1. 各種行事の開催状況(高専ソコチカラ春)

日時: 令和3年2月23日(火、祝日)
会場: 市民文化センター 中ホール

実施要項

- ・無観客開催
- ・演出、作品を撮影して、HP等にて配信(広報にも活用)
- ・会場を利用して演出する団体のみの参加(約100名)

参加予定団体(17団体、うち会場にて演出8団体)

- ・吹奏楽部
- ・奇術部
- ・ダンス部
- ・演劇部
- ・軽音楽部
- ・美術部
- ・声楽愛好会
- ・くじらの唄
- ・写真部
- ・書道部
- ・文学漫画創作愛好会
- ・クイズ研究愛好会
- ・天文学愛好会
- ・マルチメディア研究愛好会
- ・哲学愛好会
- ・ESS愛好会
- ・チャレンジプロジェクト

令和2年度(第16回)運営諮問会議 42



技術で輝け、世界へ未来へ

2. 感染予防対策

◆ 毎朝の学生健康管理

Webclassに、毎朝の健康状態を入力し、異常がないことを報告のうえ登校

設問 1 今朝の体温は、何度でしたか？(例: 36.2 数字のみ入力)

(1) _____

設問 2 現在、【発熱、倦怠感、咽頭痛、味覚、嗅覚】の体調の異常はありませんか？
上記の体調不良の場合は、その他の欄に症状を記入してください。

1. はい、体調に異常はありません。
2. いいえ、上記の他に症状を記入してください。
3. その他 _____

設問 3 2週間以内に、感染予防対策が無い状態で人が密集する場所への立入りなど、自分が感染を疑われる行動歴はありませんか？

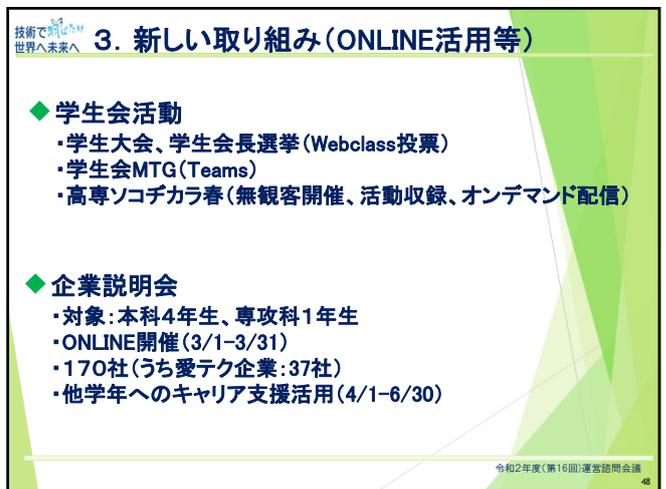
1. はい、大丈夫です。
2. 行動歴に心配事があれば、その他に記入してください。
3. その他 _____

設問 4 常に、マスクの着用、手洗い、手指消毒、3密回避、等々
新型コロナウイルス感染症の予防と感染拡大防止を考慮して行動してください。
特に食事中は感染リスクが高まります。
互いの距離を保ち、話しながらの食事を慎んでください。

1. はい、感染予防・感染拡大防止を考えて行動します。

終了

44



技術で開き世界へ未来へ 4. 学生支援状況(キャンパスライフ)

学生食堂、図書館下ロビー、売店



- ・座席数を半減、3密回避
- ・**技術室職員**による食堂テーブルシールド製作(事務職員空間のシールド製作)
- ・売店(コンビニ、品数の充実)

令和2年度(第16回)運営諮問会議 49

技術で開き世界へ未来へ 4. 学生支援状況(学生相談室)

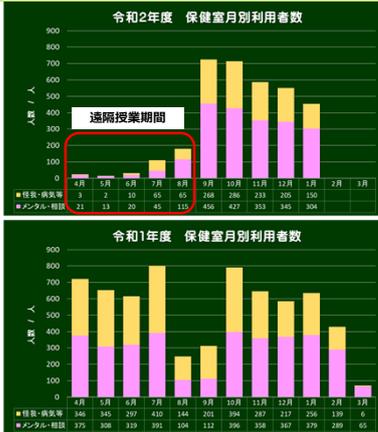
学生相談室は、学生生活の中で出会ういろいろな問題について、話し合い、相談できる場所です。学生時代は、いろいろと悩み事が多い時期です。さまざまな問題を抱える可能性は誰にでもあります。しかし、悩みは成長への第一歩であり、自分を見つめなおす大切なきっかけでもあります。学生相談室は、学生のみなさんが抱える悩みや問題を解決するお手伝いをしていきます。

カウンセリングのONLINE対応、R3年度よりSG:1名増員、ピアサポート立上げ

学内相談員			学外カウンセラー		
相談員	相談内容	研究室等の場所	相談員	相談日時	
学生相談室長	数理科	柳井 忠 一般教室棟 3 階	精神科医	豊田泰孝	毎月1回(火曜不定期) 16時～
副室長	一般教養科	櫻光樓一部 図書館棟 1 階	産業カウンセラー・初等教育カウンセラー	加藤奈津子	毎週火曜日・金曜日 14時～
学生相談員	機械工学科	田中大介 機械工学科棟 3 階	臨床心理士	佐藤恵美	毎週木曜日 16時～
〃	電気情報工学科	塩井一樹 電気情報工学科棟 3 階	臨床心理士	鈴木智寿子	毎月3回 14時～
〃	電子制御工学科	松本剛志 電子制御工学科棟 3 階	スクールソーシャルワーカー	えひめ権利擁護センター 新居浜	毎月1回 15時～
〃	生物応用化学科	田岡歩佳 生物応用化学科棟 5 階			
〃	環境材料工学科	松原廣廣 環境材料工学科棟 1 階			
〃	数理科	山下慎司 機械工学科棟 2 階			
看護師	学生課	森田悦子 保健室			
〃	〃	松本弥生 保健室			

50

技術で開き世界へ未来へ 4. 学生支援状況(保健室)



51

技術で開き世界へ未来へ 4. 学生支援状況(保健室+学生相談室)



52

技術で開き世界へ未来へ 4. 学生支援状況(チーム新居浜高専)



53

技術で開き世界へ未来へ 4. 学生支援状況(チーム新居浜高専)



★ チーム新居浜高専
入学した学生を、責任を持ってお預かりし、充実した高専生活の中で、心身ともに成長した学生を、自信を持って送り出せる学生指導支援体制

令和2年度(第16回)運営諮問会議 54

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

学寮に関する今年1年の取組み

愛媛県健康福祉環境部から助言
新居浜市危機管理課への報告

- **新しい生活様式**
 - 感染症対策(マスク、手洗い、換気、行動記録表、検温)
 - 宿直業務内容の見直し(居室巡回、集合点呼の中止)
 - 学寮行事の見直し
 - 複数人居室の様様替え
 - 食堂座席の変更と衝立設置
 - 食事と入浴の割り当て
- **施設整備**
 - 女子寮一棟集約改修計画
 - 転落防止柵、網戸の更新




令和2年度(第16回)運営諮問会議 55

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

学寮に関するこれからの取組み

- 男子寮改修計画 (R4年度概算要求)
- 食堂改修計画 (R4年度概算要求)
 - 一時避難後の対応(発電機や備蓄食料)…学内予算(学寮配分)
 - ドライ化対応調理器具への更新…学内予算(学寮再配分)にて複数年計画
- 空調設備更新…学寮運営費にて11月に機器契約内容更新
- 男子トイレの洋式化…学内予算(学寮当初・再配分)にて順次更新
- 宿直業務の一部外部委託…学内予算(学寮配分)と機構高度化推進費にて継続
- 入退出や欠食届のICT化…仕様を精査し学内予算(学寮配分)にて段階的に整備

令和2年度(第16回)運営諮問会議 56

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

令和2年度(第16回)運営諮問会議 57

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

高度技術教育研究センター エンジニアリングデザイン教育センター

研究推進活動・地域連携活動
高度教育活動に関する事項

高度技術教育研究センター長 吉川貴士
研究推進部門長 松友真哉
地域連携部門長 吉川貴士
高度教育部門長 志賀信哉
エンジニアリングデザイン教育センター長 出口幹雄

令和2年度(第16回)運営諮問会議 58

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

1. 研究推進活動

- ・愛媛大学工学部との共同研究推進
共同研究 3件(推進助成金:愛媛大学工学部長裁量)
- ・企業との共同研究 16件 (新居浜市内企業との共同研究は5件)
- ・シーズ発表(地元企業へ積極的開示)
イノベーション・ジャパン2020(令和2年9月28日～11月30日)
市役所ロビーでの展示(令和2年8月31日～9月4日)
新居浜高専 工業技術懇談会の開催(第63回令和3年2月25日)
- ・本校HPによるシーズ公開
シーズ集12(本校HPに記載)
研究者総覧(Research Mapへの一元化)
- ・科研費獲得に向けたセミナー web開催(令和2年8月27日)

令和2年度(第16回)運営諮問会議 59

技術で羽ばたけ 世界へ未来へ

研究実績

- ・論文(令和元年): 英文33報、和文12報
- ・科研費採択件数 20件(継続・分担含む)
- ・外部資金 共同研究16件(前年+1)
受託研究1件(同-1)
受託事業2件(同±0)
奨学寄附金13件(同-9)

令和2年度(第16回)運営諮問会議 60

2. 地域連携活動

- ・工業技術懇談会 Web実施(令和3年2月25日予定)
2週間公開予定
- ・愛テクフォーラム
共同研究推進事業 1件、
会員企業紹介冊子(学内限定web公開)
- ・技術相談: 3件
- ・東予東部ものづくり若年人材確保事業
Web企業説明動画制作15社支援、
Live配信遠隔企業懇談会8社 実施
- ・愛媛大学工学部 技術職員研修

ものづくり相談窓口

(エンジニアリング・デザイン教育センター)



特に、
小中学生からの
ものづくりに関する
相談を期待

E-mailでものづくりに関する相談を受け付けています。
ご相談受付メールアドレス: mono_sodan@niihama-nct.ac.jp
(メールの件名には、頭に【ものづくり相談】を付けてください。)

令和2年度 相談件数(令和3年1月時点) 4件

3. 高度教育活動

本校の特色ある特別課程(PE課程、AT課程、AI課程)の高度化と
共同教育の推進事業の採択(オンデマンド教材の作成)

- ・PE課程: 外部資金などを用いて充実を図った
- ・AT課程: 病院内立入禁止での遠隔授業・発表会実施
- ・AI課程: 教育効果向上に向けたカリキュラム変更を行った
- ・DeMaE授業(学生主体型): 外部資金を活用し遠隔地での実施
宇和島市立城東中「持続可能な衣生活について」、
四万十町立影野小「プログラミング講座」(3月予定)実施

- ・次世代型プラント技術者育成特別課程(PE課程)
- ・アシスティブテクノロジー技術者育成特別課程(AT課程)
- ・人工知能活用人材育成特別課程(AI課程)
- ・ESD対応学生主体型出前授業(DeMaE授業)

文科省 研究開発局

令和2年度宇宙航空科学技術推進委託費提案課題

宇宙航空人材育成プログラム 2020(R2)~2022(R4)

「継続的な超小型衛星開発・運用を通じた次世代の高専型宇宙人材育成」



・複数拠点によるKOSKEN衛星
シリーズの継続的開発・運用

超小型人工衛星
(CubeSat)の開発



・2U-CubeSatモデルを用いた教育
コンテンツ

・教材配布・オンライン講座の実施

高専スペースアカデミア



・KOSKEN-1のバス系モデルを利用
し、本物のCubeSatミッション
企画力とものづくり力を競う

プレ宇宙コンテスト実施

「プレ宇宙コンテスト・ワークショップ」開催
2020(R2)年11月7~8日 7高専参加

次年度 重点目標

《研究推進部門》

- ・外部資金獲得の推進
(科研費・各種助成金・企業との共同研究)
- ・研究のできる環境を目指した働き方改革の実施
- ・新居浜高専—愛媛大学—企業との研究交流会
(対面形式で実施できるタイミングで検討)

《地域連携部門》

- ・Web等を用いた企業紹介(地元、愛テクフォーラム)の充実
- ・愛媛大学工学部との連携による地域連携の活性化

《高度教育部門》

- ・PE特別課程: カリキュラムの充実
- ・AT特別課程: 臨床試験の連携
- ・AI特別課程: 受講生増
- ・DeMaE講座: 遠隔化推進



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
~新居浜高専~

技術で輝け
世界へ未来へ

男女共同参画に関する事項

第16回運営諮問会議(令和3年2月26日)
男女共同参画推進室長 橋本 千尋

令和2年度(第16回)運営諮問会議 67

技術で輝け
世界へ未来へ

男女共同参画推進室

- ▶ 平成24年10月に発足
- ▶ 推進体制
各科教員7名、総務課長、学生課長(9名中女性2名)
- ▶ 推進目標
学生及び教職員の意識啓発
ワーク・ライフ・バランスのための環境整備
校内のニーズの把握
- ▶ 新居浜市女性活躍推進事業所に認定(2016.10~)
全国ダイバーシティネットワーク組織に加盟(2019.10~)

学生総数(女子内訳)	1097名(300名、28% 全国高専平均 20%)
常勤教員総数(女子内訳)	79名(8名、10% 全国高専平均 11%)
常勤職員総数(女子内訳)	42名(17名、38% 全国高専平均 30%)

令和2年度(第16回)運営諮問会議 68

技術で輝け
世界へ未来へ

H30、H31(R1)年度採択事業「女子中高生のための理系進路選択支援プログラム」

新居浜高専の新生アンケート(R2.6)

新居浜高専の女子学生向け企画

「参考になった」との回答率は40%(女子78%、男子25%)
昨年度の結果は.....26%(女子55%、男子10%)

令和2年度(第16回)運営諮問会議 69

技術で輝け
世界へ未来へ

令和2年度の取り組み 1

- 第4ブロック高専女子フォーラム(取りまとめ校)がコロナ禍のため中止

学生への意識啓発

1年生対象: ■性教育講話(西条保健所保健師) 一部クラスはオンライン参加 【12.1月】
2年生対象: ■男女共同参画キャリア支援講座1(「春の学校」講演会) 希望者のみ視聴
3年生対象: ■男女共同参画キャリア支援講座2 【12月】
(香川高専教授「高専卒業後のキャリア形成」)
1年女子1名が「集まれ! 四国女子」(女子高校生による科学研究発表会)で発表 【8月】

KOSEN男女共同参画への集い -ON-LINE- にて応募・発表 【3月】
「ひとり親世帯の女子小中学生に対する学習支援」ローターアクト部(低学年)
「女子学生が参画する学外活動を通じたSDGs学習」DeMaEガールズ

令和2年度(第16回)運営諮問会議 70

技術で輝け
世界へ未来へ

令和2年度の取り組み 2

教職員への意識啓発

- 女性教員管理職育成研修(全4回オンライン)女性教職員3名が参加 【12月】
- 教職員向け研修会: 遠隔授業を契機に全学的にワーク・ライフ・バランスが見直されているため、本年度なし
- いはいま女性ネットワーク委員を女性教員1名が務める(任期:2年間、2年目)

環境整備、ニーズ・実態把握

- 第5回第4ブロック(中四国地区13高専)男女共同参画推進担当者協議会参加 【11月】
- 第3回全国ダイバーシティネットワークシンポジウムに参加(オンライン)【12月】
「コロナ新時代を拓くジェンダー・ダイバーシティの実現に向けて」
- 校長と女性教職員の懇談(14名参加) 【1月】
- 女性教員比率向上を図るため、女性優先公募を実施
赤字は今年度新たに初めもの

令和2年度(第16回)運営諮問会議 71

技術で輝け
世界へ未来へ

今後の課題

- JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」実施終了後の事業の継続について検討する
- 取組みの検証を行いながら、推進活動を継続する
- ワーク・ライフ・バランスに関する各種制度の周知
- 研修会を実施し、男女共同参画意識の浸透を図る
- 地域との連携体制の維持(「ひめボス(イクボス)宣言」の検討)
- 計画的に調査を行い、ニーズを把握する

令和2年度(第16回)運営諮問会議 72

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

令和2年度(第16回)運営諮問会議

73

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ

自己点検に関する事項

第16回運営諮問会議(令和3年2月26日)

副校長(評価担当) 皆本 佳計

令和2年度(第16回)運営諮問会議

74

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ

点検評価に関して

令和3年度に外部評価を受ける。



独立行政法人
大学改革支援・学位授与機構
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

高等専門学校機関別認証評価

- ・自己評価書(案)を3月に提出する。
- ・3月19日に事前相談を行う。
- ・4月～5月に2回目の事前相談
- ・正式な提出は6月
- ・11月ごろ訪問審査

令和2年度(第16回)運営諮問会議

75

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ

高等専門学校機関別認証評価の目的

- ① 教育研究活動等の質を保証すること。
- ② 教育研究活動等に関する内部質保証システムの確立・充実を図ること。
- ③ 教育研究活動等の改善・向上に役立てること。
- ④ 教育機関として果たしている公共的役割について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

令和2年度(第16回)運営諮問会議

76

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ

準備状況など

- ・ 前回指摘事項の改善確認
- ・ 点検項目の内容確認
- ・ エビデンスの精査
- ・ 意見聴取など

令和3年度の運営諮問会議では、受審結果の報告

令和2年度(第16回)運営諮問会議

77

技術で羽ばたけ
世界へ未来へ



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

令和2年度(第16回)運営諮問会議

78

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>1.1 教育に関する事項</p> <p>(1) 入学者の確保</p> <p>①-1.1 愛媛県小中学校長会の中学校部会長校を校長と教務主事が訪問し、直接、訪問先校長に本校の教育・入試・進路等について概要説明を行う。</p> <p>①-1.2 小中学生向けのイベント開催情報をウェブサイトに掲載する。申し込みフォームを改善し、より分かりやすい内容となるよう、検討する。</p> <p>①-1.3 公式SNSサイトの設置について検討する。</p> <p>①-1.4 毎月1回、メールマガジンを発信する。また、イベント等機会あるごとにメールマガジン配信登録の案内を行う。</p> <p>①-1.5 入学年度別志願者状況を作成し、地域における志願者の推移の分析を行い、今後の広報活動に活かす。</p>	<p>1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>1.1 教育に関する事項</p> <p>(1) 入学者の確保</p> <p>①-1.1 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、中学校側からの連絡もあり、訪問を見送った。</p> <p>①-1.2 ①-2.3の学校見学会(オープンキャンパス)の申込方法をウェブサイトの申込フォームから行うことができるよう改善した。</p> <p>①-1.3 情報発信力の強化のために、YouTubeによる動画配信の公式チャンネルを限定公開で設置した。</p> <p>①-1.4.メールマガジンについては、入試情報やイベント情報などの案内を毎月1回発信している。</p> <p>①-1.5 入学年度別志願状況においては、広報推進室会議資料作成の参考としたほか、効果的な広報活動(進路説明会の際の手持ち資料)に活用した。</p>
<p>①-2 広報推進室を中心に、入学志願者数が前年度を上回るよう以下の広報活動を効果的に行う。</p> <p>①-2.1 中学校訪問は、進路指導主事、3年生学年主任等を対象に、本校の概要、特色、入試、進路状況、学寮、必要経費等の説明を行うとともに、志願者等の情報収集を行う。また、中学校主催の進路説明会には必ず教員を派遣し、説明用のパワーポイント資料及び中学生向けのリーフレットに沿った説明を行う。</p> <p>①-2.2 地区別学校説明会では、中学校の校長及び進路指導担当教員を招き、説明会ならではの詳細な資料を用いて説明を行い理解を深めてもらうとともに、各校における進路指導の状況等について情報交換を行う。</p> <p>①-2.3 入試広報イベントとして、夏季体験学習、学校見学会(オープンキャンパス)、学園祭における入試問題解説コーナー、ミニキャンパスツアー等を実施する。</p> <p>①-2.4 松山地区の入学志願者増を目的とした、入試広報コーディネータによる広報活動を検討する。</p> <p>①-2.5 新居浜市及び他機関と連携して設立した「東予ものづくり祭実行委員会」の委員として教員を派遣し、各種イベントへの学生参加を通して新居浜高専の魅力を発信する。</p>	<p>①-2 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、入試広報活動が大幅に制限された。</p> <p>①-2.1 例年のような中学校訪問ができなかったが、中学校主催の進路説明会に参加の際に、中学校訪問を兼ね、説明用のパワーポイント資料及び中学生向けのリーフレットに沿った説明を行い、募集要項の配付を行った。</p> <p>①-2.2 今年度の地区別学校説明会は中止となった。</p> <p>①-2.3 入試広報イベントは、夏季体験学習及びものづくりフェスタin松山を中止したほか、学園祭中止に伴い、入試問題解説コーナー等を実施できなかったが、学校見学会(オープンキャンパス)については、オンラインで2回(9月26日、11月7日)開催した。</p> <p>①-2.4 昨年度まで行っていた松山地区での広報活動に、中予地区の中学校10校を加えて、入学志願者増を目的とした、入試広報コーディネータによる広報活動を行った。</p> <p>①-2.5 「東予ものづくり祭実行委員会」の委員として広報推進室長とイベント担当の教員が参画した。同フェスは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年より規模を縮小しての開催(11月14日～23日)となったが、パネル展示による広報活動を行った。</p>
<p>②-1.1 中学生向け広報誌「はばたけ!未来へ」には、女子の在校生や卒業生の活躍の様子を多く掲載し、女子中学生への広報を行う。</p> <p>②-1.2 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムを開催し、情報の共有・普及を行う。</p>	<p>②-1.1 広報誌「はばたけ!未来へ」では、表紙のデザインを変更し、中学生向けであることを記載するなど、「学校案内」との差異化を行った。在校生及び卒業生からのメッセージや写真を多く掲載し、興味を引く内容として作成した。同誌は例年、中学校訪問の際に持参の上配付していたが、今年度は各中学校あてに全中学3年生分を郵送した。</p> <p>②-1.2 第4ブロック高専女子フォーラムについては、コロナ禍のため年度内の開催を中止とし、令和3年度の開催について今年度末に状況を見ながら検討することとなった。</p>
<p>②-2.1 新居浜市国際交流協会と協力して地域と一体となった留学生支援を行う。</p> <p>②-2.2 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。</p> <p>②-2.3 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。</p>	<p>②-2.1 新居浜市国際交流協会に団体会員として、また、グローバル教育センター副センター長が理事として参画している。今年度はコロナ禍のため、各種イベントが中止となっているが地域団体との交流は継続中である。</p> <p>②-2.2 学校案内及びウェブサイト等を2020年度版に更新した。</p> <p>②-2.3 今年度の留学生紹介をウェブサイトに掲載するため準備中である。</p>

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>③.1 アドミッションポリシーにふさわしい人材を選抜できるよう推薦選抜及び学力検査を適切に実施する。</p> <p>③.2 これまでの入学者選抜方法(推薦40%・学力60%)による学生の入学後の成績や進路、態度志向を調査するとともに、入学選抜改革に関する実施方針に柔軟に対応できるように選抜実施体制を整える。</p>	<p>③.1 10月11日(日)に編入学試験を実施した。本科入試については、令和3年1月23日(土)に推薦選抜を実施した。2月21日(日)に学力検査を実施する。</p> <p>③.2 今年度の新入生の前期末試験成績を10月に確認し、今春の入試における推薦合格・学力合格の別、入試成績との関係を調査した。また、最寄地受験について、11月7日(土)実施のオンライン学校見学会でアナウンスするとともに、ウェブサイトに掲載した。</p>
<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1.1 産業構造の急速な変化や技術革新、地域のニーズ等に対応できる技術者を養成するため、本科・専攻科に設置した新しい教育プログラムの充実や学科等の改組について、引き続き検討する。</p> <p>①-1.2 運営諮問会議を開催し、地域のニーズ等について外部有識者から意見を伺い、本校の運営に活かす。</p> <p>①-1.3 企業の求める人材や高専卒業生の評価等について企業へのアンケート調査を実施し、教育課程の編成や授業実施方法の改善等の資料とする。</p> <p>①-1.4 今後の高専のあり方について、第4ブロック(中国・四国地区)内の高専と協働して検討を進める。化学系学科を持つ4高専の化学工学協働共有事業は幹事校としてさらに事業を推進する。</p>	<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1.1 地域の基幹産業を支える次世代型プラント技術者(PE)及びアシスティブテクノロジー(AT)技術者を養成する学科融合的な特別課程を平成30年度から本科4、5年生科目として開講しているが、今年度は6名(PE:2名、AT:4名)が同課程を修了する予定である。また、AI関連技術を基礎から応用まで修得することができる学年縦断・学科横断型カリキュラム「実践型AI活用技術者養成特別課程」を昨年度本科に設置し、現在43名(基礎:40名、応用:3名)が受講中であり、同課程における教育活動が「砥粒加工学会誌」2020年7月号の特集「発展するものづくり教育～高等専門学校におけるものづくり教育～」で紹介された。そのほか、校長のリーダーシップの下、5～10年後の本校の在り方を検討する「次世代構想ワーキンググループ」を7月に立ち上げ、学科等の改組も視野に入れた検討を開始し、年度内に提言をまとめる予定である。</p> <p>①-1.2 2月26日に外部有識者による運営諮問会議を開催し、本校の教育研究活動、地域連携活動等について意見交換を実施する予定であり、そこで得られた意見を今後の学校運営に活用することとしている。</p> <p>①-1.3 3月1日に本校において開催する企業説明会に参加する企業を対象に、本校はじめ高専卒業生の評価として、企業の要求を満たしている能力、不足している能力等についてアンケート調査を実施する。アンケート結果については、学内で情報を共有し、今後の教育課程編成、授業実施方法の改善等の資料として活用する。</p> <p>①-1.4 第4ブロック内の化学系学科を持つ4高専の化学工学協働共有事業に関して、幹事校として事業を推進し、遠隔授業期間だけでなく対面授業になってからも反転授業の予習教材として活用している。また、コロナ禍で遠隔授業が必須となったことを受けて、作成したビデオ教材47本を4月以降順次「高専教材共有システム」に登録し他高専でも利用できるようにした。さらに、これまでの成果を「工学教育」誌に投稿し、9月に掲載(Vol.68, No.5, pp.15-20(2020)) 題目:高専間協働共有事業による「化学工学」の共通シラバス作成及びビデオ教材開発)された。</p>
<p>①-2 社会ニーズを踏まえたインターンシップの実施を円滑に行えるようにするため専攻科生のインターンシップの単位数見直しなどを行う。</p>	<p>①-2 長期インターンシップを望む社会ニーズに対応して、従来の専攻科生のインターンシップ科目を「シニア・インターンシップA」(2単位)に名称変更し、新たに「シニア・インターンシップB」(3単位)、「シニア・インターンシップC」(4単位)を新設し、来年度から開講できるようにした。</p>
<p>②-1.1 4月にグローバル教育センターを設置し、学生が海外で活躍するために必要な教育的環境や支援体制の整備を行う。</p> <p>②-1.2 タイ高専(ラカバン校)へ教員を派遣し、単位互換に関する情報収集を行うとともに、他高専の単位認定制度も参考にしながら、本校の実施形態に合った単位認定制度について検討する。</p>	<p>②-1.1 4月にグローバル教育センターを設置し、教育的環境と支援体制を整備中である。コロナ禍のため学生の海外派遣の実現が困難なため、代替のオンライン研修による単位認定を教務委員会にて検討している。</p> <p>②-1.2 タイ高専(ラカバン校)へ教員を派遣した。また、タイ高専プロジェクト推進校に採択された。教材開発支援業務において、分担科目の本校代表教員を選出し、本校の授業で利用している教材の提供を行った。今後、本校が可能な支援を検討・実施していく。</p>

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>②-2.1 海外留学や語学研修等に参加した学生の体験談を広く他の学生に伝えるため、報告会等の機会を設けるとともに、ウェブサイトにおいても発信する。</p> <p>②-2.2 海外に積極的に飛び出すマインド育成のため、4年次のインターンシップ研修を海外で実施した学生に対し単位認定を行った事例を学生に紹介する。</p> <p>②-2.3 低学年においてグローバルマインドを育成する新しい科目の創設を検討する。</p>	<p>②-2.1 昨年度末に実施された高専機構の海外インターンシップ(東洋エンジニアリング株式会社クアラルンプール支社)に参加した専攻科生が、9月1日に開催されたオンライン報告会に参加し、その様子を本校ウェブサイトに掲載した。</p> <p>②-2.2 今年度は海外でインターンシップ研修を実施した学生はいない。</p> <p>②-2.3 本科1年においてグローバルマインドを育成する新しい科目の創設を検討中である。また、グローバル教育を推進・加速するため、ネイティブの英語教員を採用すべく教員公募を行ったが、採用には至らなかった。</p>
<p>③-1 連合会主催の、ロボコン、プロコン、デザコンに対して、これまでどおりの学内環境、活動支援を行う。また、鳥人間コンテストなど、高専PRに繋がる活動等においても、チャレンジプロジェクトをはじめとする後援会への支援依頼や寄付金等の外部資金獲得に努め、活動支援体制を整える。高専大会(地区大会、全国大会)等の体育局の活動において、顧問教員の負担軽減に配慮すると同時に、学生が健全な活動を行える環境整備と運用体制を構築する。</p>	<p>③-1 ロボコン、プロコン、デザコンがオンライン開催となり、遠隔授業で十分な活動時間を確保できなかったが、参加することができた。ロボコンについては、4年ぶりの全国大会出場を果たすことができた。チャレンジプロジェクトは、6件を採択して後援会の支援による活動を展開している。コロナの影響により高専大会等をはじめ各種イベントが中止となり、学生の活発な活動とまでは言えないものの、コロナ対策の下で健全な活動を継続している。</p>
<p>③-2.1 従来どおり、ローターアクトクラブや奇術部のボランティア活動を支援し、善行活動事例を県や市に報告するとともに学生表彰等にて業績の周知・評価を行う。</p> <p>③-2.2 新居浜消防署、新居浜市消防団と連携し、平成30年度から学生消防団募集事業を行っている。新居浜市では防災センターの新設に伴い、令和2年4月から学生消防団登録が本格的に開始する。学生消防団員には、消防団活動、防災・減災・救命措置に対する出前講座、啓発イベント等での活躍が期待されており、学生消防団への加入を奨励する。また、活動実績に対して、地域貢献に対する評価を行う。</p>	<p>③-2.1 9月後半まで、すべての活動において、対外的なイベントへの参加が中止となったので、実績や成果はないが、継続して活動ができるよう、技術の継承、情報の共有、広報活動に力を入れている。例年、学生表彰行事を年2回実施しており、今年度は全校学生の前での表彰はできないが、各クラスで表彰を行うなど、活動実績を評価する体制は整備している。</p> <p>③-2.2 新居浜市消防本部による学生消防団員募集事業は行われているが、コロナ禍のため具体的な連携調整ができていない。今後、状況を見ながら地域貢献事業につながる啓発活動等について計画をする。</p>
<p>③-3.1 「トビタテ! 留学JAPAN」プログラムの採用実績等について、ウェブサイト等で広報を行う。</p> <p>③-3.2 同プログラムで留学する学生に対して、実りある留学となるよう事前指導を行うとともに、留学終了後には学内で報告会を開催する。</p> <p>③-3.3 その他、各種奨学金の情報提供を行う。</p>	<p>③-3.1 「トビタテ! 留学JAPAN」プログラムに参加した学生の報告書・ポスターをウェブサイトと学内で閲覧できるようにした。</p> <p>③-3.2 コロナ禍のため、同プログラムによる留学は延期となった。高校生コース第7期の募集があり、5名が申請した。</p> <p>③-3.3 各種奨学金については、随時、情報提供を行っている。</p>
<p>(3) 多様かつ優れた教員の確保</p> <p>① 専門科目の教員公募では、「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」を応募資格とする。ただし、一般教養科の教員公募では、原則は「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」ではあるが、分野によっては、「修士の学位」であっても「博士の学位を有する者」と同等程度の業績がある場合もあること、また、多様な人材からの応募が期待できるという側面も考慮し、人事委員会の議を経て、「修士以上の学位を有する者」を応募資格とするケースもありうる。公募要領の「その他」の欄に、「多様な背景を持つ教員組織を目指しており、高等教育機関に勤務経験のある方のみならず、高等学校、民間企業、研究機関等に過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」旨の文書を記載する。</p>	<p>(3) 多様かつ優れた教員の確保</p> <p>① 今年度は、令和3年4月1日付け採用に係る2件(電子制御工学科、一般教養科(英語))の教員公募を実施した。電子制御工学科については、2月1日時点で、採用予定者からの受諾待ち、一般教養科については採用に至らず(辞退)の状況である。</p>

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
② 昨年度に引き続き、将来的なクロスアポイントメント制度導入に向けて、近隣の大学、研究機関等の導入事例を調査する。	② 愛媛大学での導入事例について調査した。愛媛大学では、現在、10件の事例があり、民間企業との間では、大学作成の協定書フォーマットにより締結し、年間のエフォート(自社での勤務:大学での勤務の割合)に基づき勤務していること、大学との間では、自大学と相手大学の協定書(案)を基に協議のうえ協定書を作成し、自大学での勤務と愛媛大学での勤務の割合を調整した形(愛媛大学で勤務する割合が多いものの自大学でも勤務する時間もある。)で勤務時間を管理していること等を確認し、参考資料等の提供を受けた。
③ 昨年度に、育児・介護などのライフステージに応じた勤務形態の制度化について検討を開始するための前段階として、各学科等での現状を聴取した。今年度は、ライフステージに応じて、公務(学科内担当、宿直・クラブ指導等の免除、担当授業コマ数の減免)の負担割合を調整したり、働き方改革の一環として、学事歴の見直し(土日イベントの減少等)や年次有給休暇の取得促進を進めることにより、誰もが働きやすい職場環境を整備するための具体的な検討を開始する。	③ 昨年度に引き続いて、11月に開催した教員人事構想ワーキングにおいて検討した。女子学生へのサポートのためにも女性教員比率の向上が不可欠であり、「女性限定」公募を学校として推進する、女性教員の意見を受け入れる寛容さと女性教員へのサポートが必要である、教員の業務軽減(例:委員会数の削減)や電子化による事務仕事の大幅な削減などにより働き易さを実現することができるなどの意見があり、ワーキング座長(副校長)からこれらの意見を校長に上申した。
④ 教員公募の際、人事委員会において、外国人教員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえた上で検討する。	④ 今年度を実施した一般教養科(英語)の公募については、外国人教員の採用を念頭においた公募要領(母語が英語)とした(ただし、例えば、海外の大学において学位を取得するなどした、母語レベルの英語力を有する日本人であれば応募可とした。)ところ、アメリカ国籍の日本の大学院(博士)修了予定者からの応募があり、最終面接を経て採用合格としたものの、残念ながら、辞退された。
⑤ 「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、教員の受入・派遣を推進する。	⑤ 「高専・両技科大間教員交流制度」では、今年度は、派遣、受入ともに希望者がいなかったが、「同居支援プログラム」では、現在、派遣、受入とも1名あり、来年度も同様に、派遣、受入とも1名の予定である。また、校長間の協議(覚書締結)に基づき、来年度4月から3年間、富山高専から1名を受け入れ、再来年度から2年間、本校から富山高専に1名派遣する予定である。
⑥ 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する各種研修の有効活用(個人レベルでの研修への積極的参加の推奨、学校としての新任教員のSPODプログラムへの参加義務)を実施すると同時に、SPODの講師派遣プログラムを毎年、本校で開催する。	⑥ コロナ禍において、SPODが提供する研修プログラムのほとんどが不開講となる中、講師派遣プログラムについては、11月25日にリモート(高知大学から)による研修(題目:学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?)を実施した。
⑦ 高専機構の顕彰制度に合わせて、学内顕彰(最優秀教員・優秀教員・最優秀学級担任)も継続して実施する。	⑦ 高専機構の顕彰制度に基づき、最優秀教員1名(一般部門1名、若手部門該当者なし)を選出すると同時に、最優秀に続く優秀教員を3名、10月に選出した。なお、最優秀学級担任は3月に選出予定である。

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>(4)教育の質の向上及び改善</p> <p>①-1.1 モデルコアカリキュラムを起点とした教育の質保証の取組について、学生に周知するとともに、学生に対しては自己評価を、教員には授業改善を促す。また、各専門学科のディプロマポリシーに基づく到達目標の設定状況を把握する。</p> <p>①-1.2 アクティブラーニングや反転授業、動画教材作成など、主体的な学修を促すための試みを把握、学内で情報共有し、教育方法や教材などの共有化を検討する。</p> <p>①-1.3 ラーニングマネジメントシステムとして「Web Class」を活用し、学生の予習・復習や自学自習をサポートする。</p> <p>①-1.4 CBT(Computer-Based Testing)や勉学アンケート等により学生の学習到達度・学習時間を把握する。</p> <p>①-1.5 科目間調整連絡会を開催し、専門基礎科目と専門科目の担当教員間で密な連携を図り、授業改善に繋げる。</p>	<p>(4)教育の質の向上及び改善</p> <p>①-1.1 5月11日の遠隔授業開始前に、主事講話とし全学生にモデルカリキュラム(MCC)及びWebシラバスを活用した教育の質保証の取組について、動画による周知を行った。さらに年度当初、教務委員会を通じて授業担当者に、最初の授業時にMCCやシラバス記載のルーブリックについての説明を必ず行うこと、学生には自己評価を、教員にはシラバスに記載したとおりの評価とシラバスを用いた授業改善の実施を依頼した。</p> <p>①-1.2 前期12週分を遠隔授業とし、オンデマンド教材として反転授業用教材や動画教材を作成、適宜学生からの意見をアンケートによって収集し、教務委員会において情報共有を行った。また、teamsによる教員会(11月)において遠隔授業の振り返りを行い、教員からの意見を共有した。</p> <p>①-1.3 本校のラーニングマネジメントシステムである「Web Class」に遠隔講義資料や課題などをアップロードした。対面授業に移行後も学生の予習・復習や自学自習のサポートを行っている。</p> <p>①-1.4 CBT(「数学」「物理」「化学」)を1～3年生の後期の特別活動時間に実施中である。その結果については、各担当教員が解析を行い、今後の指導計画等も含めて教員会で報告し、教員間での情報共有を図る。また、勉学アンケートを11月中に実施し、学生の勉学状況を把握する。</p> <p>①-1.5 今年度末までに科目間調整連絡会を開催し、専門基礎科目と専門科目の教員同士で情報交換、課題共有を行う。</p>
<p>② 大学改革支援・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価を受ける準備を行う。 具体的には、同評価基準に基づく自己点検・評価を行い、エビデンスを含めた自己点検書を作成する。</p>	<p>② 令和3年度に受審する機関別認証評価の自己点検書の作成を進めている。特に、エビデンスの精査・収集を進めている。3月には自己点検書を完成させ、大学改革支援・学位授与機構と事前打合せを行う予定である。</p>
<p>③-1.1 地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL(Project-Based Learning))の実施状況を把握するとともに、現在実施している取組を充実させる。</p> <p>③-1.2 医療現場における課題解決を目指した学科横断型「アシスティブテクノロジー技術者育成特別課程」においてPBLを実施する。</p>	<p>③-1.1 今年度獲得した外部資金(中谷医工計測技術振興財団 科学教育振興【個別】助成)を活用し、機械工学科及び生物応用化学科の学生が、PBLとしての環境教育を宇和島市立城東中学校において実施した(9月24日、12月2日)。</p> <p>③-1.2 アシスティブテクノロジー技術者育成特別課程においては、オンラインを活用するなどして、前期(5年生)2テーマ、社会実装のPBL学習を実施した。後期からは4年生が新たに3テーマについてPBL学習を実施した。</p>
<p>③-2.1 企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ、実習やインターンシップ等の共同教育を実施し、高専フォーラム等で取組事例を周知する。</p> <p>③-2.2 地域企業等と連携した「次世代型プラント技術者育成特別課程(PE課程)」において、現役プラント技術者による最前線の講義と実習を行うとともに、企業現場での実習(インターンシップ)を行うなど、共同教育を実施する。また、この取組事例を論文に取りまとめで、日本高専学会誌へ投稿することで各高専に周知する。</p>	<p>③-2.1 プラント技術者育成特別課程(PE課程)においては、今年度獲得した外部資金(ちゅうでん教育振興財団 ちゅうでん教育振興助成)を活用して、複数企業からの講師派遣のほか、現場実習やインターンシップ等で共同教育を実施した。夏季休業期間中に企業で実習を行った5名の学生が、9月28日に学内で実習報告会を行った。</p> <p>③-2.2 上記のとおりPE課程で実施している共同教育の取組や活動をまとめた論文「地域企業との連携によるプラント技術者育成特別課程」が、日本高専学会誌 Vol.25, No.3, pp1-6(2020)に掲載された。</p>

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>③-3 「情報セキュリティ人材育成事業」(K-SEC)に実践校として継続して参画し、情報セキュリティ教育の広く全学科への展開・実践を行う。この事業を通して、警察関係機関への学生向け講話の講師派遣依頼、「サイバーセキュリティシンポジウム道後(SEC道後)」への参加等、外部機関との連携を計画する。また、授業、特別活動、課外活動等への展開を行う。</p>	<p>③-3 「情報セキュリティ人材育成事業」(K-SEC)に実践校として継続して参画し、オンラインで情報共有を行っている。6月30日にK-SEC中核拠点校担当者と打合せを行い、情報セキュリティ教育のコンテンツの全学科への展開方法を検討し、来年度のシラバスに記載する準備を行っている。また、次のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のため、9月17日、18日に開催延期・オンライン開催となった「サイバーセキュリティシンポジウム道後(SEC道後)」に、教職員3名が参加した(試験期間中のため学生の参加はなし)。 ・情報セキュリティに関連する項目に関して、「次期MCC素案に基づいたカリキュラムモデル作成ワークショップ」に、8月25日午後の半日コースに教員3名が参加した。
<p>④ 技術科学大学との共同事業や機器相互利用プログラム等を活用し、技術科学大学と教育研究分野で有機的な連携を図る。</p>	<p>④ 高専機構と長岡技科大との共同研究推進事業において、研究課題1件が採択され事業を進めている。また、アフターコロナを見据えた研究活動体制構築を目指し、長岡技科大、豊橋技科大及び他高専とのSHARE事業に参画した。本事業は遠隔地においても、リアルタイムで実験機器を遠隔操作できるシステムを構築し、運用しようとするもので、本年度は必要な機器の導入及びセキュリティー構築について、概ね計画どおり進んでいる。今後は、導入した遠隔操作システムで長岡技科大に設置されている機器を用いた実験に取り組む予定である。</p>
<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <p>①.1 配慮を必要とする学生に対して、従来どおり、配慮願を、本人、保護者、専門員、特別支援教育推進室メンバーにより作成する。配慮願を基に、教員会において全教員向けに配慮項目の通知と配慮事例について情報共有を行う。同時に、当該学生が安心して就学できるよう、特別支援教育スーパーバイザーによる教員研修を開催する。</p> <p>①.2 学生相談は、従来どおりの外部委託によるスクールカウンセラー等の人員を確保し、平日毎日の相談に対応できる体制を維持・継続する。</p> <p>①.3 保健室の看護師も常勤1名、外部委託1名の常時2名体制を継続し、学生相談の窓口となる連携強化に努める。</p> <p>①.4 メンタルヘルス教育推進室が企画する教職員や学生対象の研修を継続して開催する。</p>	<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <p>①.1 遠隔授業期間中は、配慮を必要とする学生に対する特別な対応はなかったが、8月末からの対面授業に際して、教員会において個々の配慮願の内容と対応について全教員に周知した。また、非常勤講師に対しても別途周知した。</p> <p>①.2, 3 学生指導支援体制整備費の配分により、看護師、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを平日は毎日配置し、昨年度同様の規模の相談体制を確保し運用を行っている。</p> <p>①.4 コロナ禍のため、外部講師を招いての研修会は、今のところ見合わせている。</p>
<p>② 奨学金制度について、全学生に公平な情報提供と個人の状況に応じた申請を行えるよう、学内掲示と担任を通じて周知を行う。特に担任は、奨学金制度のPR、学生個人の経済的就学状況把握、学生と各奨学金制度へのマッチングを図る。</p>	<p>② 奨学金制度の学内周知を徹底し、種々の奨学金制度の応募は、定数を超える応募数がある。家計状況や成績評価等にて条件を満たせないケースもあるが、マッチングにより、奨学金制度を有効に活用できている。</p>
<p>③ 新型コロナウイルス対策で、令和元年度の企業説明会を中止したため、新5年生・専攻科2年生に対する就活情報を早期に収集し活用できるよう、キャリアプラザにて情報収集の場を開設する。キャリアプラザは、全学生が利用可能であり、低学年から就職先や企業が求める高専生像などを確認することができる場として活用する。また、企業へのアンケート、卒業生へのアンケート等を分析のうえ情報共有し、学内でのキャリア教育の情報源とする。さらに、キャリアプラザの維持・管理と情報窓口を担当する専任職員(外部委託)の配置を検討する。</p>	<p>③ キャリアプラザを求人情報収集の場として、就活をする5年生、専攻科2年生が、随時、自由に情報が入手できるよう初期段階ではあるが環境整備をした。今年度の就職内定率もコロナ禍にもかかわらず順調である。また、キャリア教育の一環として低学年のキャリアプラザの利用について、教員会において案内を行った。さらに、現在、キャリアプラザへの専任職員の配置について具体的な検討に入った。また、今年度の企業説明会はオンライン開催とし、高専生を求める企業情報が低学年にも閲覧できるようキャリア教育につなげる計画としている。</p>

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>1.2 社会連携に関する事項</p> <p>①.1 教員の年間業績報告書を作成し、ウェブサイトで公開することを継続する一方で、Researchmapへの統合も検討する。</p> <p>①.2 高度技術教育研究センターのウェブサイト上で「教員研究テーマ紹介」「所有特許紹介」「最近の研究成果」を更新し情報発信する。</p> <p>①.3 Researchmapの情報の更新を促す。国立高専研究情報ポータルサイト内「研究・技術シーズ」の全教員登録と最新情報への更新を促す。</p> <p>①.4 2020年度版新居浜高専教員シーズ集を作成し、関係機関等へ配付するとともにウェブサイトで公開する。</p> <p>①.5 本校の研究活動について、一般の方にも知ってもらうため、新居浜市役所の玄関ロビー等で研究シーズに関するパネル展示を行う。</p>	<p>1.2 社会連携に関する事項</p> <p>①.1 教員の年間業績報告書を6月に作成し、ウェブサイトで公開した。また、教員業績についてはResearchmapの登録に一元化することを検討したが、同報告書は当該年度の業績の把握が容易であることから継続して作成することとした。</p> <p>①.2 高度技術教育研究センターのウェブサイト上で公開している「教員研究情報紹介」「保有特許紹介」「最近の研究成果」等の情報を更新するとともに、各ページを整理した。</p> <p>①.3 Researchmapの情報更新とともに、国立高専研究情報ポータルサイト内「研究・技術シーズ」の全教員登録を促しているが、現時点において約60%の登録に留まっているため、年度内に登録100%を目指す。</p> <p>①.4 教員の研究シーズ集については、冊子の作成を隔年毎とすることとし、2020年度版はウェブサイト上で公開するため現在準備中である。</p> <p>①.5 9月28日～10月2日の一週間、一般市民向け広報活動として、新居浜市役所の玄関ロビーにおいて本校の特色ある教育活動等をパネル展示で紹介するとともに、研究シーズ集(冊子)を配布した。</p>
<p>②.1 高専リサーチアドミニストレータ(KRA)や四国地区高専イノベーションセンターのコーディネータ等を活用し情報収集を行い、共同研究・受託研究の受入れを促進する。</p> <p>②.2 マッチングイベントへの出展を積極的に推進し、社会へ情報発信するとともに知的財産化にも努めるように促す。</p>	<p>②.1 KRAとの連携により申請をした「研究成果展開事業研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)令和2年度トライアウト」に1件の研究課題が採択され、連携企業との共同研究を開始した。そのほか、文部科学省の令和2年度宇宙航空科学技術推進委託費・宇宙人材育成プログラムに、本校が研究代表機関とし6高専(新居浜、高知、徳山、米子、岐阜、群馬)が共同提案した課題「継続的な超小型衛星開発・運用を通じた次世代の高専型宇宙人材育成」が採択され、事業を開始した。</p> <p>②.2 今年度はオンライン開催となったが、「イノベーションジャパン2020～大学見本市Online」と「おおた研究開発フェアONLINE」に出展することで、研究成果を社会に発信した。その結果、複数の企業から当該研究成果について問合せがあった。</p>
<p>③-1.1 情報発信力の強化のために、公式SNSサイトの設置について検討する。</p> <p>③-1.2 画像や文字による情報発信に加え、動画コンテンツの作成及び情報発信の手法について検討する。</p>	<p>③-1.1 情報発信力の強化のために、YouTubeによる動画配信の公式チャンネルを限定公開で設置した。【再掲】1.1(1)①-1.3</p> <p>③-1.2 新型コロナウイルス感染拡大の防止から対面での学校見学会が中止となったため、オープンキャンパスの登録者限定のWebページを開設し、63本の動画コンテンツを作成・公開した。</p>
<p>③-2 各種イベントの開催情報、地域連携の取組、教職員及び学生の特徴ある教育研究活動等については、ウェブサイトで公開するとともに、積極的に報道機関へ情報発信を引き続き行う。また、地域のケーブルテレビ局や情報サイト、情報誌等へも引き続き情報発信を行う。報道された内容等については機構本部へその都度報告する。</p>	<p>③-2 ウェブサイトにおいて各種イベントの開催情報、地域連携の取組、教職員及び学生の特徴ある教育研究活動等について適時公開している。また、報道機関への情報発信も行い、新聞等のメディアで掲載されている。また、地域のケーブルテレビ局や情報サイト、情報誌等へも情報発信を行っており、報道された内容等については機構本部へその都度報告を行っている。</p>
<p>1.3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、可能な限り支援・協力を行う。</p>	<p>1.3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 タイ高専(ラカバン校)へ教員を派遣した。また、タイ高専プロジェクト推進校に採択され、今後、本校が可能な支援を検討・実施していく。【再掲】1.1(2)②-1.2</p>

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
①-2 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、可能な限り支援・協力をを行う。	①-2 タイ高専プロジェクト推進校に採択されたため、そちらに注力する。
①-3 タイ高専(ラカバン校)へ教員を派遣し、単位互換に関する情報収集を行うとともに、他高専の単位認定制度も参考にしながら、本校の実施形態に合った単位認定制度について検討する。【再掲】1. 1(2)②-1.2	①-3 タイ高専(ラカバン校)へ教員を派遣した。また、タイ高専プロジェクト推進校に採択され、今後、本校が可能な支援を検討・実施していく。【再掲】1. 1(2)②-1.2
①-4 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、可能な限り支援・協力をを行う。	①-4 タイ高専プロジェクト推進校に採択されたため、そちらに注力する。【再掲】①-2
①-5.1 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。 【再掲】1. 1(1)②-2.2 ①-5.2 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。【再掲】1. 1(1)②-2.3 ①-5.3 マレーシア国民大学をはじめとする教育機関との交流を促進する。	①-5.1 新居浜市国際交流協会に団体会員として、また、グローバル教育センター副センター長が理事として参画している。今年度はコロナ禍のため、各種イベントが中止となっているが地域団体との交流は継続中である。【再掲】1. 1(1)②-2.2 ①-5.2 今年度の留学生紹介をウェブサイトに掲載するため準備中である。【再掲】1. 1(1)②-2.3 ①-5.3 オンラインでの交流・研修の可能性を検討中である。
② 本校の学生・教職員の海外派遣・国際交流活動を積極的に支援するとともに、第4ブロック及び機構本部の事業に参画することにより、本校と「高専(KOSEN)」の認知度を高めていく。	② タイ高専(ラカバン校)へ教員を派遣した。また、タイ高専プロジェクト推進校に採択された。教材開発支援業務において、分担科目の本校代表教員を選出し、本校の授業で利用している教材の提供を行った。今後、本校が可能な支援を検討・実施していく。【再掲】1. 1(2)②-1.2
③-1.1 4月にグローバル教育センターを設置し、学生が海外で活躍するために必要な教育的環境や支援体制の整備を行う。【再掲】1. 1(2)②-1.1 ③-1.2 タイ高専(ラカバン校)へ教員を派遣し、単位互換に関する情報収集を行うとともに、他高専の単位認定制度も参考にしながら、本校の実施形態に合った単位認定制度について検討する。【再掲】1. 1(2)②-1.2	③-1.1 4月にグローバル教育センターを設置し、教育的環境と支援体制を整備中である。【再掲】1. 1(2)②-1.1 ③-1.2 タイ高専(ラカバン校)へ教員を派遣した。また、タイ高専プロジェクト推進校に採択された。教材開発支援業務において、分担科目の本校代表教員を選出し、本校の授業で利用している教材の提供を行った。今後、本校が可能な支援を検討・実施していく。【再掲】1. 1(2)②-1.2
③-2.1 海外留学や語学研修等に参加した学生の体験談を広く他の学生に伝えるため、報告会等の機会を設けるとともに、ウェブサイトにおいても発信する。【再掲】1. 1(2)②-2.1 ③-2.2 海外に積極的に飛び出すマインド育成のため、4年次のインターンシップ研修を海外で実施した学生に対し単位認定を行った事例を学生に紹介する。【再掲】1. 1(2)②-2.2 ③-2.3 低学年においてグローバルマインドを育成する新しい科目の創設を検討する。【再掲】1. 1(2)②-2.3	③-2.1 昨年度末に実施された高専機構の海外インターンシップ(東洋エンジニアリング株式会社クアラルンプール支社)に参加した専攻科生が、9月1日に開催されたオンライン報告会に参加し、その様子を本校ウェブサイトに掲載した。【再掲】1. 1(2)②-2.1 ③-2.2 今年度は海外でインターンシップ研修を実施した学生はいない。【再掲】1. 1(2)②-2.2 ③-2.3 本科1年においてグローバルマインドを育成する新しい科目の創設を検討中である。また、グローバル教育を推進・加速するため、ネイティブの英語教員を採用すべく教員公募を行ったが、採用には至らなかった。【再掲】1. 1(2)②-2.3
③-3.1 「トビタテ! 留学JAPAN」プログラムの採用実績等について、ウェブサイト等で広報を行う。【再掲】1. 1(2)③-3.1 ③-3.2 同プログラムで留学する学生に対して、実りある留学となるよう事前指導を行うとともに、留学終了後には学内で報告会を開催する。【再掲】1. 1(2)③-3.2 ③-3.3 その他、各種奨学金の情報提供を行う。【再掲】1. 1(2)③-3.3	③-3.1 「トビタテ! 留学JAPAN」プログラムに参加した学生の報告書・ポスターをウェブサイトと学内で閲覧できるようにした。【再掲】1. 1(2)③-3.1 ③-3.2 コロナ禍のため、同プログラムによる留学は延期となった。高校生コース第7期の募集があり、5名が申請した。【再掲】1. 1(2)③-3.2 ③-3.3 各種奨学金については、随時、情報提供を行っている。【再掲】1. 1(2)③-3.3

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>④-1.1 新居浜市国際交流協会と協力して地域と一体となった留学生支援を行う。【再掲】1. 1(1)②-2.1</p> <p>④-1.2 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。【再掲】1. 1(1)②-2.2</p> <p>④-1.3 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。【再掲】1. 1(1)②-2.3</p>	<p>②-2.1 新居浜市国際交流協会に団体会員として、また、グローバル教育センター副センター長が理事として参画している。今年度はコロナ禍のため、各種イベントが中止となっているが地域団体との交流は継続中である。【再掲】1. 1(1)②-2.1</p> <p>②-2.2 学校案内及びウェブサイトを2020年度版に更新した。【再掲】1. 1(1)②-2.2</p> <p>②-2.3 今年度の留学生紹介をウェブサイトに掲載するため準備中である。【再掲】1. 1(1)②-2.3</p>
<p>④-2 先行する他高専の情報を収集しながら、将来的な受入に向けて制度及び施設の整備を進める。</p>	<p>④-2 タイ高専(ラカバン校)へ教員を派遣した。また、タイ高専プロジェクト推進校に採択された。教材開発支援業務において、分担科目の本校代表教員を選出し、本校の授業で利用している教材の提供を行った。今後、本校が可能な支援を検討・実施していく。【再掲】1. 1(2)②-1.2</p>
<p>⑤-1 海外渡航時における連絡体制及び危機管理の体制整備を行う。</p> <p>⑤-2 海外渡航時には海外旅行保険への加入を義務付ける。</p> <p>⑤-3 外国人留学生に対して国際交流推進室、留学生指導教員及び学生チューターによる学業・生活支援を引き続き継続する。</p> <p>⑤-4 外国人留学生が学内外で充実した生活を送ることができるよう地域の支援団体の協力を仰ぐ。</p>	<p>⑤-1 海外留学生安全対策協議会(JCSOS)に加盟した。また、学内における危機管理体制を整備中である。</p> <p>⑤-2 海外旅行保険の加入義務付けに向け、情報収集中である。</p> <p>⑤-3 遠隔授業中の学習支援や渡日に向けた調整を行った。11月6日に留学生全員が本校に揃った。10月末からムスリムの留学生に対して学寮食堂においてハラル料理の提供を始めた。</p> <p>⑤-4 新居浜市国際交流協会をはじめ、地域の支援団体から留学生に対して継続して支援を受けている。</p>
<p>2. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>2.1 一般管理費等の効率化</p> <p>① 一般管理費縮減のため、予算の計画的な執行と適正な物品管理に努める。各種事業・行事等の実施に当たっては、関係機関等と連携を密にし効率的に運営する。</p> <p>② 少額随意契約の基準額を超える契約については、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど競争性の確保に努める。また、契約の適正化を図るため、一括契約ができるよう計画的に進める。</p> <p>③ 本校作成の「財務会計マニュアル」をさらに充実させるため、見直し等を行う。</p>	<p>2. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>2.1 一般管理費等の効率化</p> <p>① 予算の計画的執行及び適正な物品管理に努めている。新型コロナウイルス感染拡大への対策費用増、各種行事等の中止による支出減等について関係部署等との連携を密にし、運営している。</p> <p>② 一般競争入札における一者応札の見直しとして、仕様策定段階で複数者が応札可能な仕様とすることを徹底し、競争性の確保、より安価で適正な価格での契約に努めている。</p> <p>③ 「財務会計マニュアル」については、現在の状況に即した内容にするため、改訂作業を行っている。</p>
<p>2.3 契約の適正化</p> <p>① 少額随意契約の基準額を超える契約については、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど競争性の確保に努める。また、契約の適正化を図るため、一括契約ができるよう計画的に進める。 【再掲】2. 1②</p>	<p>2.3 契約の適正化</p> <p>① 一般競争入札における一者応札の見直しとして、仕様策定段階で複数者が応札可能な仕様とすることを徹底し、競争性の確保、より安価で適正な価格での契約に努めている。 【再掲】2. 1. ②</p>

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</p> <p>校長裁量経費として、教育研究推進費、共同研究推進費及び外部資金獲得推進費を設け、社会貢献・地域連携促進につながるよう予算措置を行う。 運営費交付金の会計処理について、業務達成基準による収益化が原則とされたことに注意し、収益化単位の業務ごとに予算管理する。</p>	<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理</p> <p>① 教育研究推進費、共同研究推進費は5月に募集を行い、8月に該当教員へ予算配分を行った。外部資金獲得推進費については、外部資金の申請状況に基づき、4月及び11月に当該教員へ予算配分を行った。 ② 業務達成基準の収益化については、業務終了時に収益化できるよう、収益化の単位ごとに予算管理を行っている。</p>
<p>3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加</p> <p>①.1 科学研究費の申請・採択件数の増加を目的とし、関連情報を学内へ周知するとともに講習会等を実施する。 ①.2 研究業績の向上と外部資金獲得を目的に、学術論文誌への投稿を義務付けた校長裁量経費「共同研究推進費」の募集を行う。 ①.3 新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」を通じて卒業生が就職した企業、同窓会等からの寄附金の獲得につながる取組を検討する。 ①.4 イノベーションジャパン等の各種マッチングイベントについては、出展に係る経費の一部を支援するなど積極的に参加を推奨することで共同研究等に繋げる。</p>	<p>3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加</p> <p>①.1 科学研究費に関連する情報は、随時、学内周知を行うとともに、申請・採択件数の向上を目的に8月7日に学内講師2名による「科研費獲得セミナー」をWeb会議システムにより実施(後日、録画配信)した。また、「国立高専科研費申請書査読者ネットワーク」による研究計画調書の査読制度を1名の教員が利用した。 ①.2 研究業績の向上と外部資金獲得を目的に、学術論文誌への投稿を義務付けた校長裁量経費「共同研究推進費」の募集を行い、3件を採択した。また、昨年度「第4ブロック内共同研究助成事業(2年間)」に採択された研究課題を通して、外部資金2件(A-STEP、財団助成金)を獲得することができた。 ①.3 「愛テクフォーラム」や同窓会等を通じた寄附金獲得に繋がる取組については検討中であるが、地域企業1社から「ものづくり人材の育成等に活用してほしい」との趣旨で多額の寄附を受け入れることができた。 ①.4 マッチングイベントへの出展に当たっては、例年「愛テクフォーラム」から必要経費の支援を得ているが、今年度は参加イベントがオンライン開催となったため不要であった。今後も同様の支援を得られることとなっている。</p>
<p>3. 3 予算 (高専機構本部所掌事項 以下、7まで)</p>	<p>—</p>
<p>3. 4 収支計画</p>	<p>—</p>
<p>3. 5 資金計画</p>	<p>—</p>
<p>4. 短期借入金の限度額</p>	<p>—</p>
<p>5. 不要財産の処分に関する計画</p>	<p>—</p>
<p>6. 重要な財産の譲渡に関する計画</p>	<p>—</p>
<p>7. 剰余金の使途</p>	<p>—</p>

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項 8.1 施設及び設備に関する計画</p> <p>①-1.1 学寮整備計画に基づき、計画的な改修整備の予算要求を実施する。 ①-1.2 施設のニーズ調査、整備要望を踏まえ、策定済のキャンパスマスタープランの見直しを進める。 ①-1.3 各学科等からの整備要望のとりまとめ及び施設パトロールにより校内全体の整備需要・要望を把握の上、施設整備計画を策定し、緊急度・必要度に応じた計画的な改善整備を推進する。 ①-1.4 施工規模の大小にかかわらず、省エネ型器具、再生材料や木材等の自然資源を積極的に取り入れ、ランニングコスト低減と地球環境に配慮した設計・施工を推進する。 ①-1.5 5期計画の4期・5期分の基幹整備を完了させる。</p>	<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項 8.1 施設及び設備に関する計画</p> <p>①-1.1 計画どおり実施中である。向陽寮改修事業は文科省から【S評価】の通知を受けている。 ①-1.2 キャンパスマスタープランについては、2020年版を策定し11月の運営会議において報告を行った。 ①-1.3 計画どおり、5月に学内要望を収集の上、改修リストを作成し、計画的に改修を実施している。 ①-1.4 計画どおり実施中である。 ①-1.5 令和3年度末までに事業完了の見込みである。</p>
<p>①-2 非構造部材の耐震点検・耐震対策チェックリストに基づくパトロールを月一回のペースで実施し、必要に応じて対策を講じる。</p>	<p>①-2 計画どおり実施中である。</p>
<p>②.1 新入生及び新任教職員に「実験実習安全必携」を配付する。 ②.2 今年度も学外から講師を招いて、放射線業務従事者講習会及び安全衛生講演会を実施する。</p>	<p>②.1 機構本部で作製されていた「実験実習安全必携」と同様のものを作成し、新入生・新任教職員に配付した。 ②.2 コロナ禍において、1月に緊急事態宣言が発出されたことに伴い、最終的に放射線業務従事者講習会と安全衛生講演会の開催は断念した。</p>
<p>③.1 女子学生のニーズ調査を実施し、整備計画を策定の上、緊急度等に応じ整備を推進する。 ③.2 女子学生の受入を推進するため、現在進行中のトイレ改善整備計画に基づき、引き続き女子トイレの整備を推進する。</p>	<p>③.1 緊急度等に応じ整備を推進する予定である。 ③.2 電子制御工学科棟及び福利厚生施設(尚友会館)のトイレ洗面台の自動水栓化を行った。</p>
<p>8.2 人事に関する計画 (1)方針</p> <p>①.1 休日のクラブ安全管理指導員は、外部委託による体制を継続し、学生生活の現状についての情報連携の強化を図る。また、OB教員を活用した学生指導支援を展開し、遠征費や人件費の確保について検討する。 ①.2 学生相談は、従来どおりの外部委託によるスクールカウンセラー等の人員を確保し、平日毎日の相談に対応できる体制を維持・継続する。【再掲】1. 1(5)①.2 ①.3 保健室の看護師も常勤1名、外部委託1名の常時2名体制を継続し、学生相談の窓口となる連携強化に努める。【再掲】1. 1(5)①.3 ①.4 教員の負担軽減を目的とし、学生寮日直業務及び学寮指導業務は、外部委託を継続する。また、2名(月1回は3名)体制の宿直業務うち1名を外部委託することを検討する。</p>	<p>8.2 人事に関する計画 (1)方針</p> <p>①.1 クラブ安全管理指導員は、令和2年9月から平日・休日ともに外部委託による体制となり、健全な課外活動の運用と教員の負担軽減につながっている。OB教員の活用については、具体的な事業としては実施に至っていないが、デザコンやクラブ活動において非常勤講師として来校しているOB教員の指導、助言等を得ている。 ①.2、3 学生指導支援体制整備費の配分により、看護師、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを平日は毎日配置し、昨年度同様の規模の相談体制を確保し運用を行っている。【再掲】1. 1(5)①.2、3 ①.4 教員の負担軽減のため、学生寮日直業務及び学寮指導業務は、外部委託を継続し行っている。また、学生寮宿直業務については、令和2年9月から土・日・祝日は、宿直者2名のうち1名について外部委託をすることとなった。</p>
<p>③ 第4期中期目標・計画期間中における教員人員枠整理においては、教員の年齢構成や教授の自然減の想定の下、令和6年4月時点までには標準人員枠数を達成することはできないものの、標準人員枠の流用ルールにより、十分な若手教員の採用枠の確保が可能なことを確認しており、今後も積極的に優秀な若手教員を採用していく。(ただし、令和3年4月1日時点では、移行期枠が講師2名分が残る予定である。)</p>	<p>③ 第4期中期目標・計画期間中に達成すべき新たな人員枠「73」の枠の中で、教授枠を利用しての助教枠の運用を行うことにより、若手教員の採用枠確保を行った。(電子制御工学科公募:助教、一般教養科公募:助教)</p>

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>④-1 専門科目の教員公募では、「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」を応募資格とする。ただし、一般教養科の教員公募では、原則は「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」ではあるが、分野によっては、「修士の学位」であっても「博士の学位を有する者」と同等程度の業績がある場合もあること、また、多様な人材からの応募が期待できるという側面も考慮し、人事委員会の議を経て、「修士以上の学位を有する者」を応募資格とするケースもありうる。公募要領の「その他」の欄に、「多様な背景を持つ教員組織を目指しており、高等教育機関に勤務経験のある方のみならず、高等学校、民間企業、研究機関等に過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」旨の文書を記載する。【再掲】(3)①</p>	<p>④-1 今年度は、令和3年4月1日付け採用に係る2件(電子制御工学科、一般教養科(英語))の教員公募を実施した。電子制御工学科については、2月1日時点で、採用予定者からの受諾待ち、一般教養科については採用に至らず(辞退)の状況である。【再掲】(3)①</p>
<p>④-2 昨年度に引き続き、将来的なクロスアポイントメント制度導入に向けて、近隣の大学、研究機関等の導入事例を調査する。【再掲】(3)②</p>	<p>④-2 愛媛大学での導入事例について調査した。愛媛大学では、現在、10件の事例があり、民間企業との間では、大学作成の協定書フォーマットにより締結し、年間のエフォート(自社での勤務:大学での勤務の割合)に基づき勤務していること、大学との間では、自大学と相手大学の協定書(案)を基に協議のうえ協定書を作成し、自大学での勤務と愛媛大学での勤務の割合を調整した形(愛媛大学で勤務する割合が多いものの自大学でも勤務する時間もある。)で勤務時間を管理していること等を確認し、参考資料等の提供を受けた。【再掲】(3)②</p>
<p>④-3 昨年度に、育児・介護などのライフステージに応じた勤務形態の制度化について検討を開始するための前段階として、各学科等での現状を聴取した。今年度は、ライフステージに応じて、公務(学科内担当、宿直・クラブ指導等の免除、担当授業コマ数の減免)の負担割合を調整したり、働き方改革の一環として、学事歴の見直し(土日イベントの減少等)や年次有給休暇の取得促進を進めることにより、誰もが働きやすい職場環境を整備するための具体的な検討を開始する。【再掲】(3)③</p>	<p>④-3 昨年度に引き続いて、11月に開催した教員人事構想ワーキングにおいて検討した。女子学生へのサポートのためにも女性教員比率の向上が不可欠であり「女性限定」公募を学校として推進する、女性教員の意見を受け入れる寛容さと女性教員へのサポートが必要である、教員の公務軽減(例:委員会数の削減)や電子化による事務仕事の大幅な削減などにより働き易さを実現することができるなどの意見があり、ワーキング座長(副校長)からこれらの意見を校長に上申した。【再掲】(3)③</p>
<p>④-4 教員公募の際、人事委員会において、外国人教員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえた上で検討する。【再掲】(3)④</p>	<p>④-4 今年度実施した一般教養科(英語)の公募については、外国人教員の採用を念頭においた公募要領(母語が英語)とした(ただし、例えば、海外の大学において学位を取得するなどした、母語レベルの英語力を有する日本人であれば応募可とした。)ところ、アメリカ国籍の日本の大学院(博士)修了予定者からの応募があり、最終面接を経て採用合格としたものの、残念ながら、辞退された。【再掲】(3)④</p>

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>④-5.1 教職員対象に外部講師によるワーク・ライフ・バランス等に関する研修会を開催する。</p> <p>④-5.2 学外機関が主催する男女共同参画に関する研修会に男女共同参画推進室員を派遣する。</p> <p>④-5.3 ワーク・ライフ・バランスに関する具体的な支援事業について、学内教職員への情報発信を促進する。</p> <p>④-5.4 男女共同参画に関する情報をウェブサイトにおいて発信する。</p> <p>④-5.5 第5回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会に参加し、情報の共有・普及を行う。</p> <p>④-5.6 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムを開催し、情報の共有・普及を行う。【再掲】1. 1(1)②-1</p> <p>④-5.7 昨年度から参画した全国ダイバーシティネットワークにおいて得た知見を学内へ情報発信する。</p>	<p>④-5.1 教職員対象の外部講師によるワーク・ライフ・バランス等に関する研修会の開催については、遠隔授業を契機に全学的にワーク・ライフ・バランスが見直されているため、今年度は見送ることとした。</p> <p>④-5.2 高専機構女性教員管理職育成研修を女性教職員3名が受講した。</p> <p>④-5.3 ワーク・ライフ・バランスに関する具体的な支援事業について、学内教職員への情報発信を促進している。また、今年度も「校長と女性教職員との懇談会」を1月19日に開催した。</p> <p>④-5.4 男女共同参画に関する情報をウェブサイトにおいて発信している。</p> <p>④-5.5 第5回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会(11月20日)に参加し、ブロック間及び学内で情報共有をした。</p> <p>④-5.6 第4ブロック高専女子フォーラムについては、コロナ禍のため年度内の開催を中止とし、令和3年度の開催について今年度末に状況を見ながら検討することとなった。【再掲】1. 1(1)②-1</p> <p>④-5.7 全国ダイバーシティネットワークにおいて得た知見を学内へ情報発信している。</p>
<p>⑤ 引き続き、近隣国立大学との積極的な人事交流を推進する。また、近隣高専と事務系職員の採用に係る合同面接を実施し、将来的な高専間の人事交流についても両高専間で検討する。</p>	<p>⑤ 愛媛大学人事課に対して、今後の継続的な人事交流について、来年度も大学から本校へ2名程度の職員を派遣してもらう方向で調整中である。弓削商船高専の職員採用面接に総務課長が面接員として協力した。</p>
<p>(2) 人員に関する指標</p> <p>常勤職員の職務能力を向上させるための機会(各種研修への参加推奨、自律的な活動への評価等)、業務の効率化を図るための方策(業務改善アイデア)、事務のIT化(グループウェアの活用等)に向けた取り組み等を通じて、人材の育成及び人材の適切な配置に努める。</p>	<p>(2) 人員に関する指標</p> <p>コロナ禍において、予定されていた各種研修が軒並み中止に追い込まれ、また、学内での3密回避の必要性からも職員の自律的な活動も制限される中、職員の人材育成面では、学内事務のIT化(在宅勤務含む)のみならず、各機関とを結んでの新たな研修方法が求められる。なお、3密対策を徹底することにより12月に開催された人事院四国事務局主催の中堅職員研修に1名を派遣した。</p>
<p>8.3 情報セキュリティについて</p> <p>① 平成30年度に受審した情報セキュリティ監査に対応した改善策の定着を進める。</p> <p>② 高専機構や他機関が実施する情報セキュリティに関する研修や、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーに参加し、職責等に応じた情報セキュリティ教育を計画的に行う。また、外部講師による研修会を開催する等、教職員の意識向上を図り、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を行う。併せて、「すぐやる3箇条」の周知を継続し、初期対応を徹底する。さらに、情報セキュリティ関連の委員会にて対策等について情報共有を行う。</p>	<p>8.3 情報セキュリティについて</p> <p>① 9月28日付け機構本部「情報関係規則等の改正」に基づき、関連する学内規程の改正に向け準備中である。</p> <p>② 研修等については、次のとおり実施又は計画している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月25日実施の「情報セキュリティトップセミナー」(機構本主催)を受講対象者全員が受講した(ビデオ視聴含む)。 ・10月7日-28日の職場一斉巡視の際に、情報セキュリティ責任者(校長)による「すぐやる三箇条」の身近への掲示の点検を実施した。 ・10月27日～12月21日、「情報セキュリティ研修」(機構本部主催)を実施した(受講率88%)。 ・四国警察支局による教職員向けの情報セキュリティ研修会を2月12日開催に向けて準備中である。

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
<p>8.4 内部統制の充実・強化</p> <p>①-1 予算配分等の重要課題については、校長のリーダーシップの下、企画調整会議等において迅速かつ効果的に意思決定を行う。また、他高専等との間では必要に応じてWEB会議システムを活用する。</p>	<p>8.4 内部統制の充実・強化</p> <p>①-1 予算配分等の重要課題については、校長のリーダーシップの下、企画調整会議等において迅速かつ効果的に意思決定に努めている。特に、今年度においては新型コロナウイルス感染症への対応のため、対策本部会議を定期的(2週間に1回)に開催し、状況に応じた取組・情報発信を行っている。また、コロナ禍のため、各種会議等については学内外に関わらずWeb会議システムを活用している。</p>
<p>①-2 校長・事務部長会議等で得た情報については、校長が運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底を図る。</p>	<p>①-2 校長・事務部長会議等で得た情報については、校長が運営会議や教員会等で周知を行い、全学的な情報共有の徹底に努めている。</p>
<p>①-3 ブロック校長会議等において、学校運営や教育活動の在り方等について意見交換を行う。</p>	<p>①-3 第1回四国地区高専校長・事務部長会議(5月11日)、第1回第4ブロック校長会議(6月17日)、第2回同会議(10月29日)に参加し、地区及びブロック内での情報共有・連携を図った。</p>
<p>②-1 校長は、理事長との面談において得た機構全体の共通課題等について、運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底を図る。</p> <p>②-2 校長と主事をはじめ各部門の長(専攻科長、センター長、室長)とで各担当部署における今年度の年度計画や課題等について確認を行うとともに情報共有を行う。</p> <p>②-3 校長と全教員との面談を実施する。</p>	<p>②-1 校長が理事長との面談において得た機構全体の共通課題や本校の課題等について、運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底に努めた。</p> <p>②-2 例年、年度当初に実施していた校長と主事をはじめ各部門の長(専攻科長、センター長、室長)との情報共有の場は設定することができなかった、必要に応じ、他の機会(会議等)を利用しながら課題等の情報共有に努めている。</p> <p>②-3 校長と全教員との面談については、時期を定めた一斉の実施はできなかったが、必要に応じて随時、個別に行っている。</p>
<p>②-2.1 教職員全員を対象に機構本部作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づく自己点検を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。</p> <p>②-2.2 高専機構主催の階層別研修等に参加するほか、全学的にコンプライアンス意識を浸透させるために研修等を実施する。</p>	<p>②-2.1 機構本部作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づく全教職員の自己点検については、現在実施中である。</p> <p>②-2.2 高専機構主催の階層別研修には、中止となったもの以外はすべて該当者を参加させた。また、11月24日に全教職員を対象とした顧問弁護士によるコンプライアンス研修(ハラスメント防止のため)をWeb会議システムにより実施した。</p>
<p>②-3 リスク事案については、「災害及び事故事件発生時の情報連絡体制」に基づき、速やかに機構本部担当へ連絡をするとともに、本部と十分な連携のもと適切に対処する。</p>	<p>②-3 リスク事案(新型コロナウイルス感染症、情報セキュリティ関連を含む)については、「災害及び事故事件発生時の情報連絡体制」に基づき、速やかに機構本部担当へ連絡をするとともに、本部と十分な連携のもと適切に対処することに努めている。</p>
<p>③.1 高専相互監査において、効率的かつ効果的な監査を実施するため、監査事項等について、会計担当職員の理解を深める。また、監査事項を中心に自己点検と職員間の相互チェックを行う。</p> <p>③.2 高専機構の不正防止計画に則した取組を確実に実施するため、適正な体制整備を行う。</p> <p>③.3 学内における内部監査等が適切に実施できるよう、随時監査内容等の見直しを行う。</p>	<p>③.1 監査校として監査を実施するにあたり、担当者間で打ち合わせを行い、監査事項等について理解を深めた上で監査に臨んだ。</p> <p>③.2 学内規程が高専機構の不正防止計画に則したものとなっているか随時点検を行い、必要に応じて見直しを行うこととしている。会計機関の補助者及び金庫監守責任者については、適切に変更手続きを行った。</p> <p>③.3 学内内部監査については、監査員を発令し2月末までに実施予定である。</p>

令和2年度 新居浜高専の年度計画及び進捗状況

(令和3年2月1日現在)

年度計画	進捗状況
④ 高専機構の不正防止計画等への取組状況について、定期的に報告を行う。また、学内で策定した「適正な会計処理に向けた対応策」の見直しを継続的に実施し、高専機構の不正防止計画とともに周知徹底を図り、不正防止に努める。	④ 高専機構の不正防止計画等への取組状況については、例年状況報告を行っている。「適正な会計処理に向けた対応策」については、高専機構の規則改正時など必要の都度、見直しを行うこととしている。また、高専機構の不正防止計画とともに9月に実施した学内研修の際に周知を行った。学内研修未受講者には年度内に再度研修を実施する予定である。
⑤ 高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、具体的な指標、事項を設定した本校の年度計画を策定する。	⑤ 高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、具体的な指標、事項を設定した本校の年度計画を策定した。

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

平成17年2月8日規程第2号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を確保するため、運営諮問会議（以下「会議」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 会議は次に掲げる事項について、校長の求めに応じ意見を述べるものとする。

- (1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。
- (2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

(組織)

第3条 会議は、本校の教職員以外の者で、高専に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから、校長が委嘱した若干名の委員をもって組織する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任することを妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、委員に欠員を生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第5条 会議の議長は、委員の互選により選出する。

- 2 議長は、会議の会務を総括する。

(運営)

第6条 会議は、校長が招集する。

- 2 会議は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 校長は、運営諮問会議での審議事項について、運営会議に報告するものとする。

(事務)

第8条 会議の事務は、総務課において行う。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成17年2月8日から施行する。
- 2 新居浜工業高等専門学校外部評価委員会規程（平成13年8月29日規程第8号）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成24年11月27日から施行する。

令和2年度（第16回）

運営諮問会議報告書

令和3年3月

新居浜工業高等専門学校総務課

〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町7番1号

TEL: (0897)37-7700

FAX: (0897)37-7842

HP: www.niihama-nct.ac.jp